

決算説明会

2025年3月期 第3四半期

ミネベアミツミ株式会社

2025年2月5日

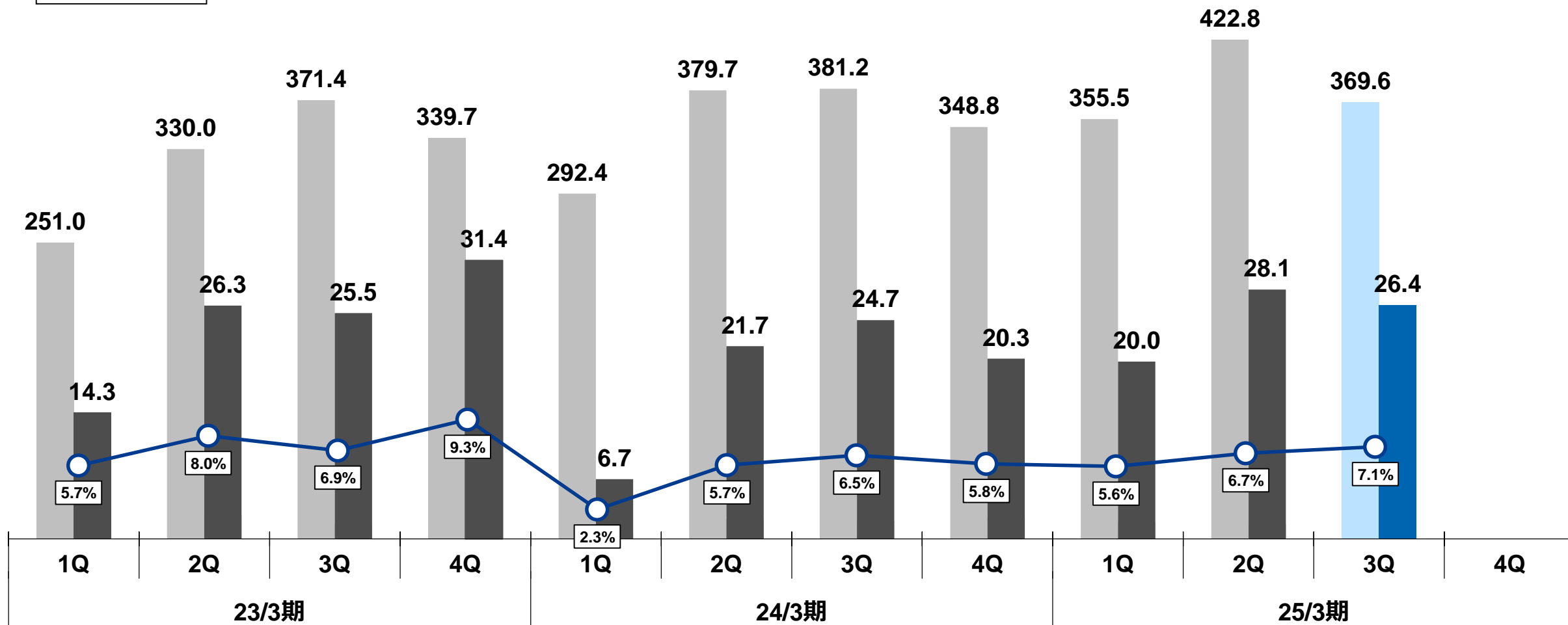
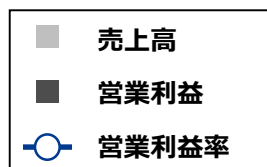
前年同期比で減収も、高収益ビジネスの成長に伴い増益

(百万円)	2024年3月期		2025年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q	3Q		
売上高	381,207	422,783	369,643		-3.0%	-12.6%
営業利益	24,704	28,146	26,423		+7.0%	-6.1%
税引前利益	21,414	18,030	24,183		+12.9%	+34.1%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	15,212	12,112	17,606		+15.7%	+45.4%
基本的1株当たり 四半期利益 (円)	37.62	30.00	43.83		+16.5%	+46.1%

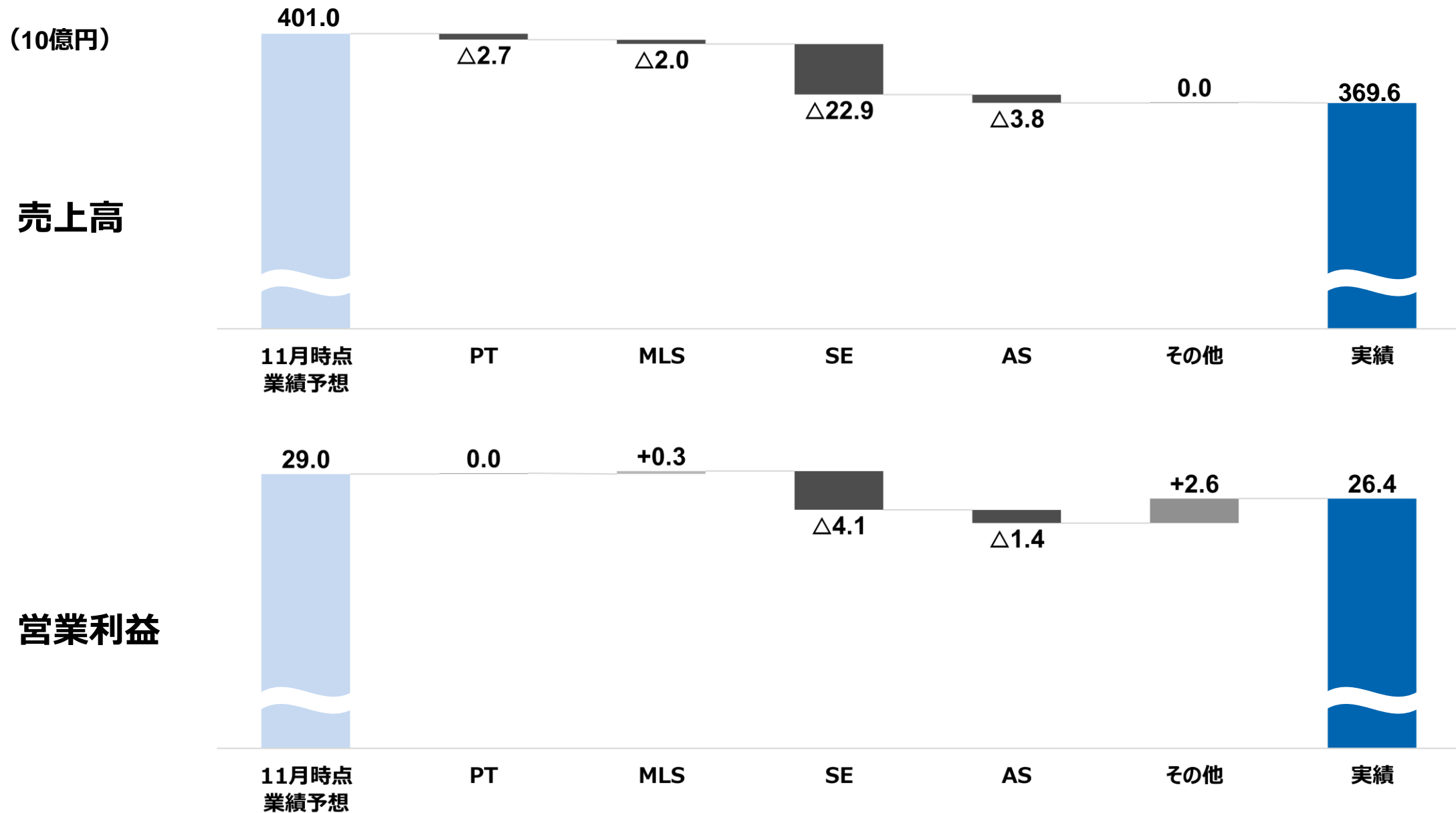
為替レート	2024年3月期		2025年3月期	
	3Q	2Q	3Q	3Q
US\$	149.09円	154.16円	149.03円	
ユーロ	159.31円	167.59円	161.99円	
タイバーツ	4.15円	4.29円	4.42円	
人民元	20.47円	21.30円	20.88円	

売上高、営業利益、営業利益率

(10億円)

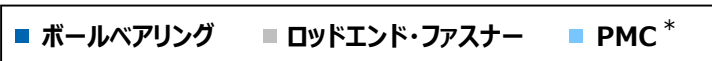


3Q実績 前回予想（2024年11月6日）からの差異

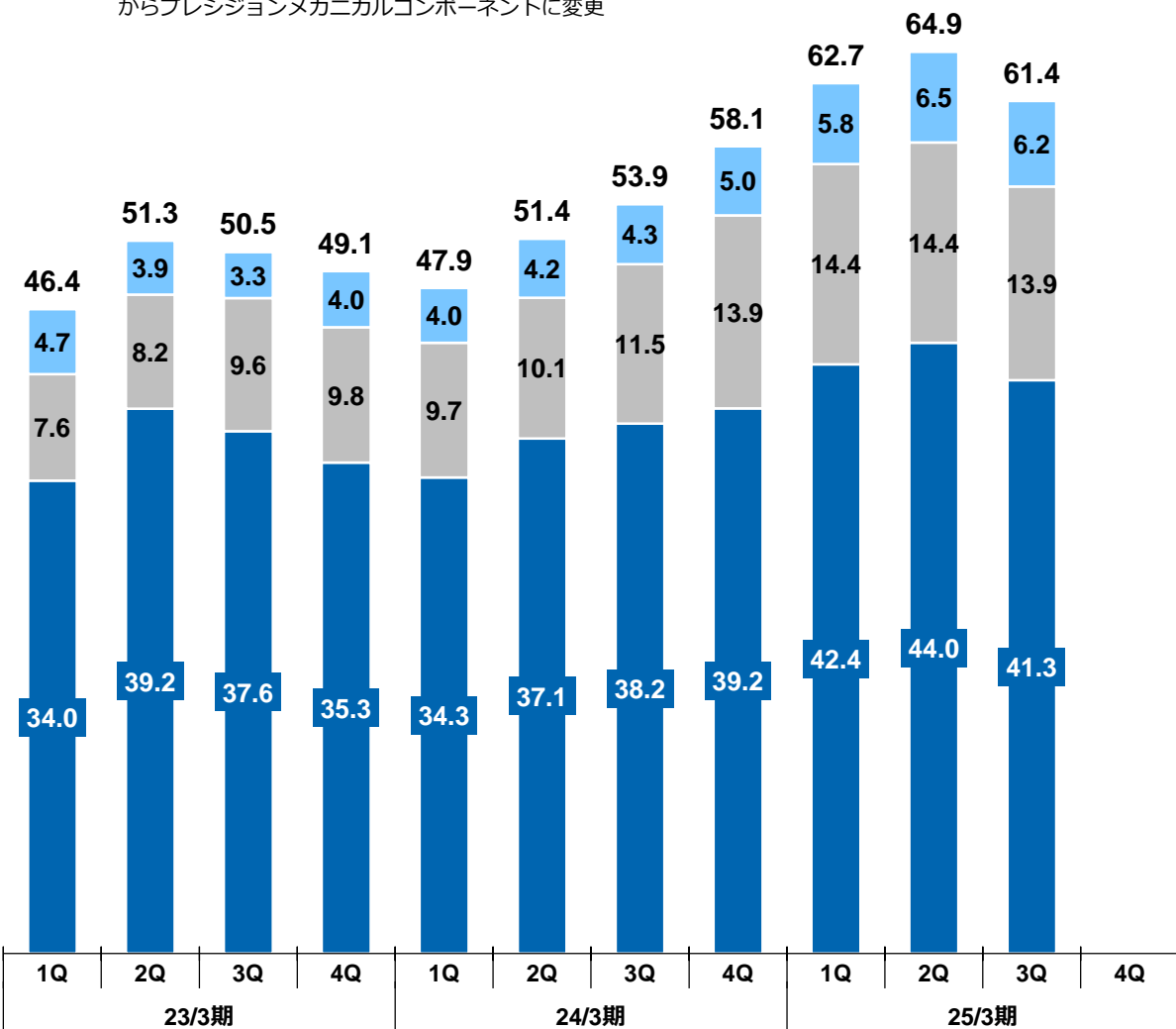


プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

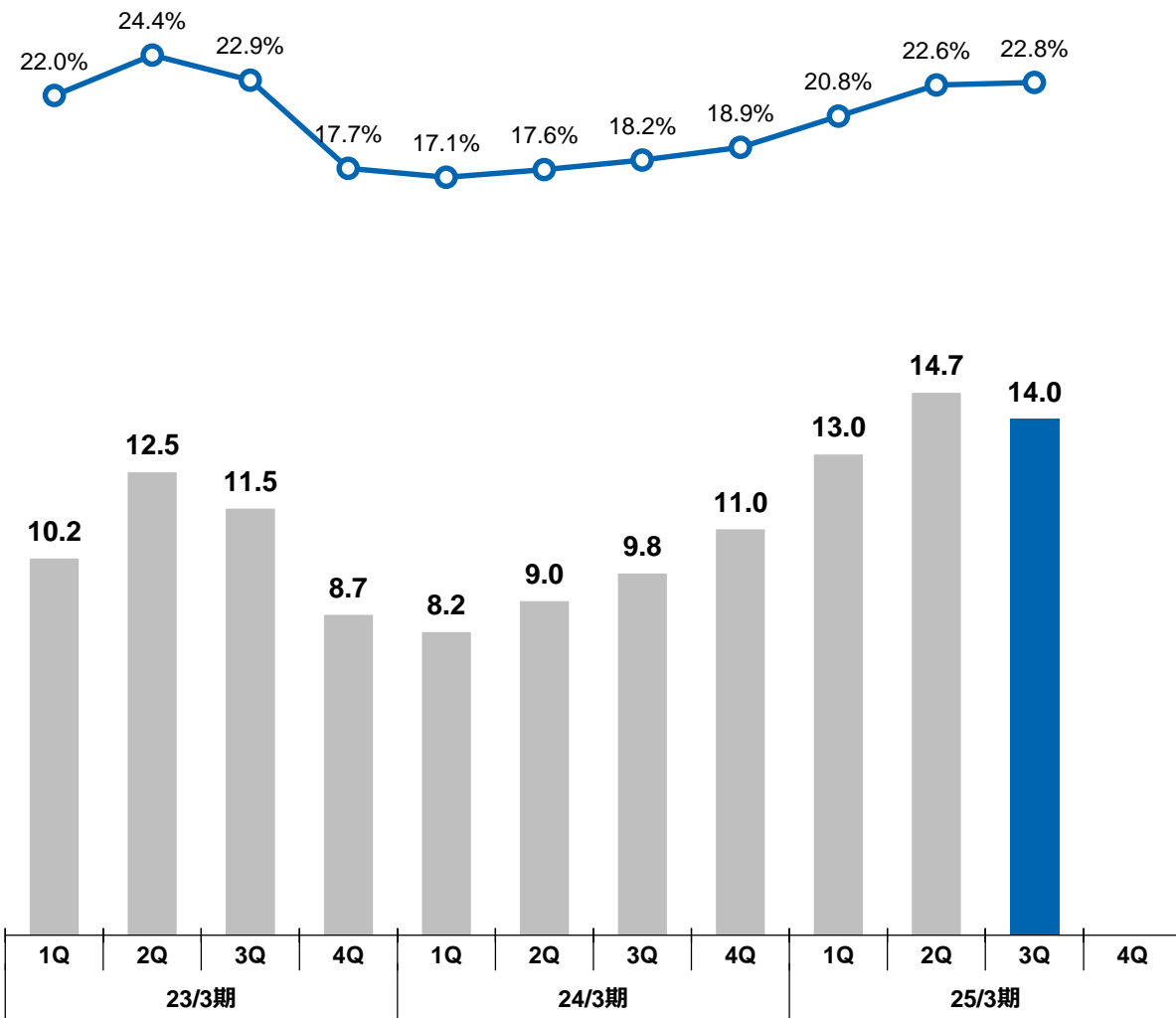
売上高 (10億円)



*24/3期 4Qより、サブセグメント名をピボットアッセンブリーからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更

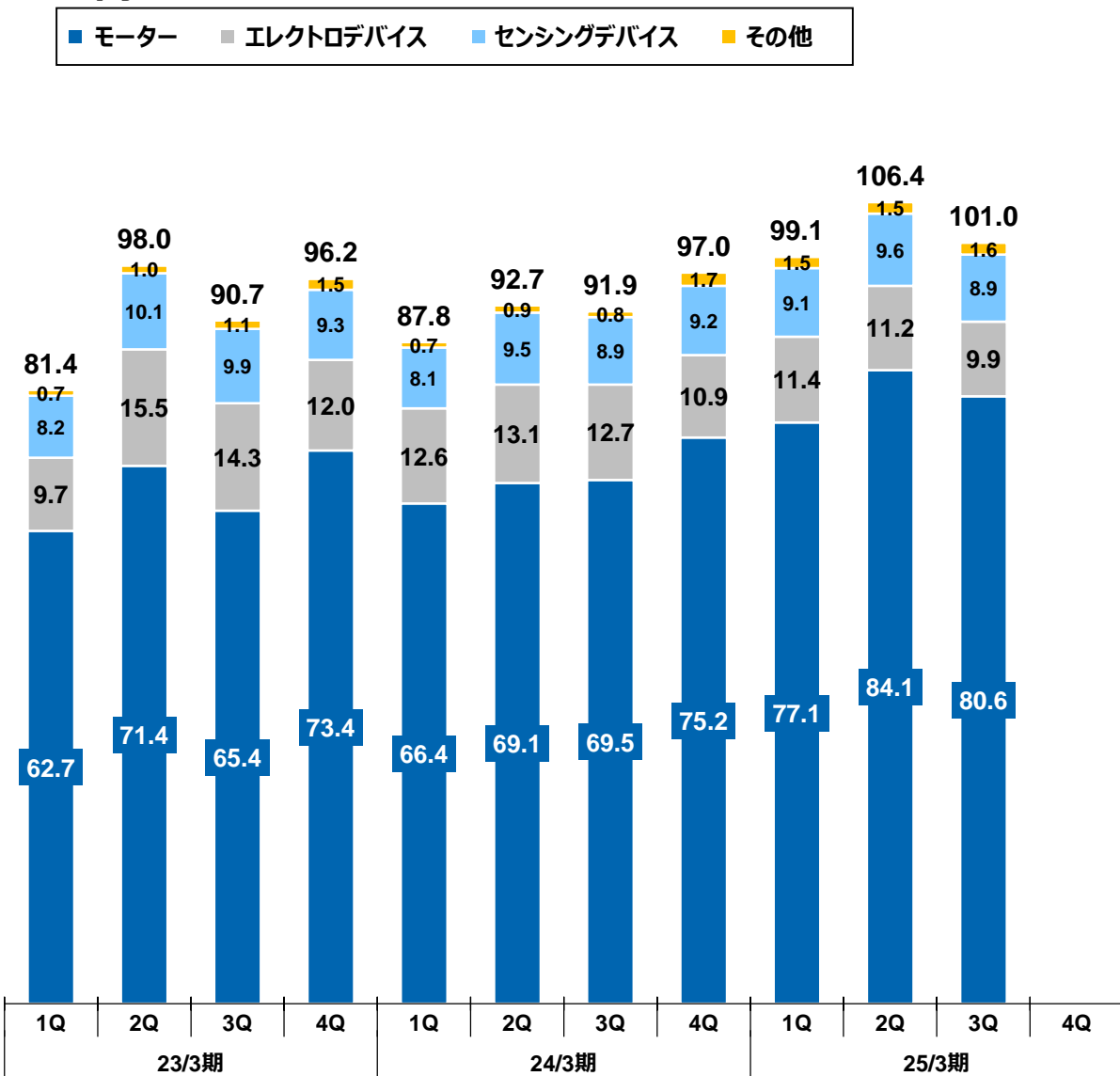


営業利益 (10億円)

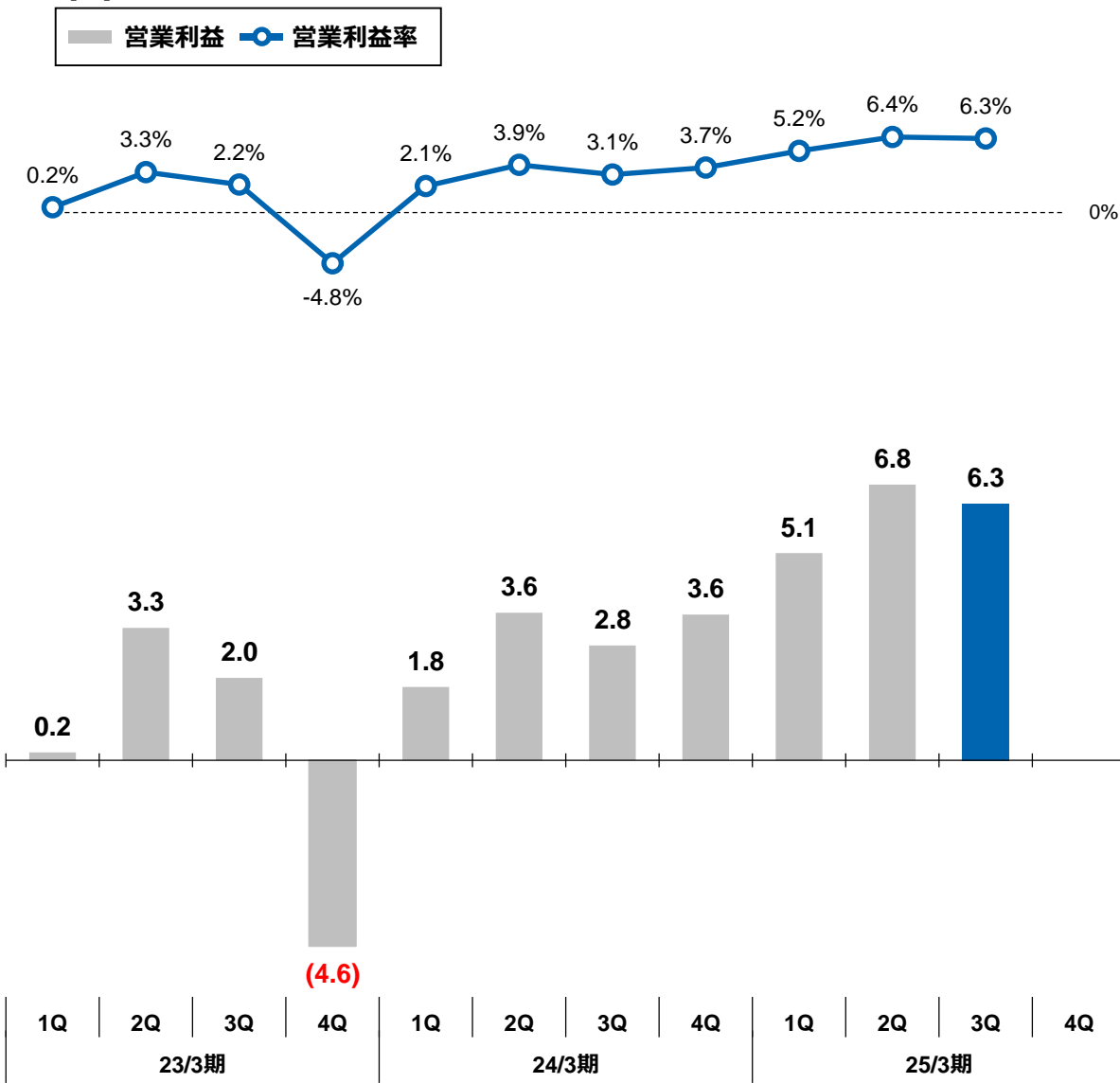


モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)

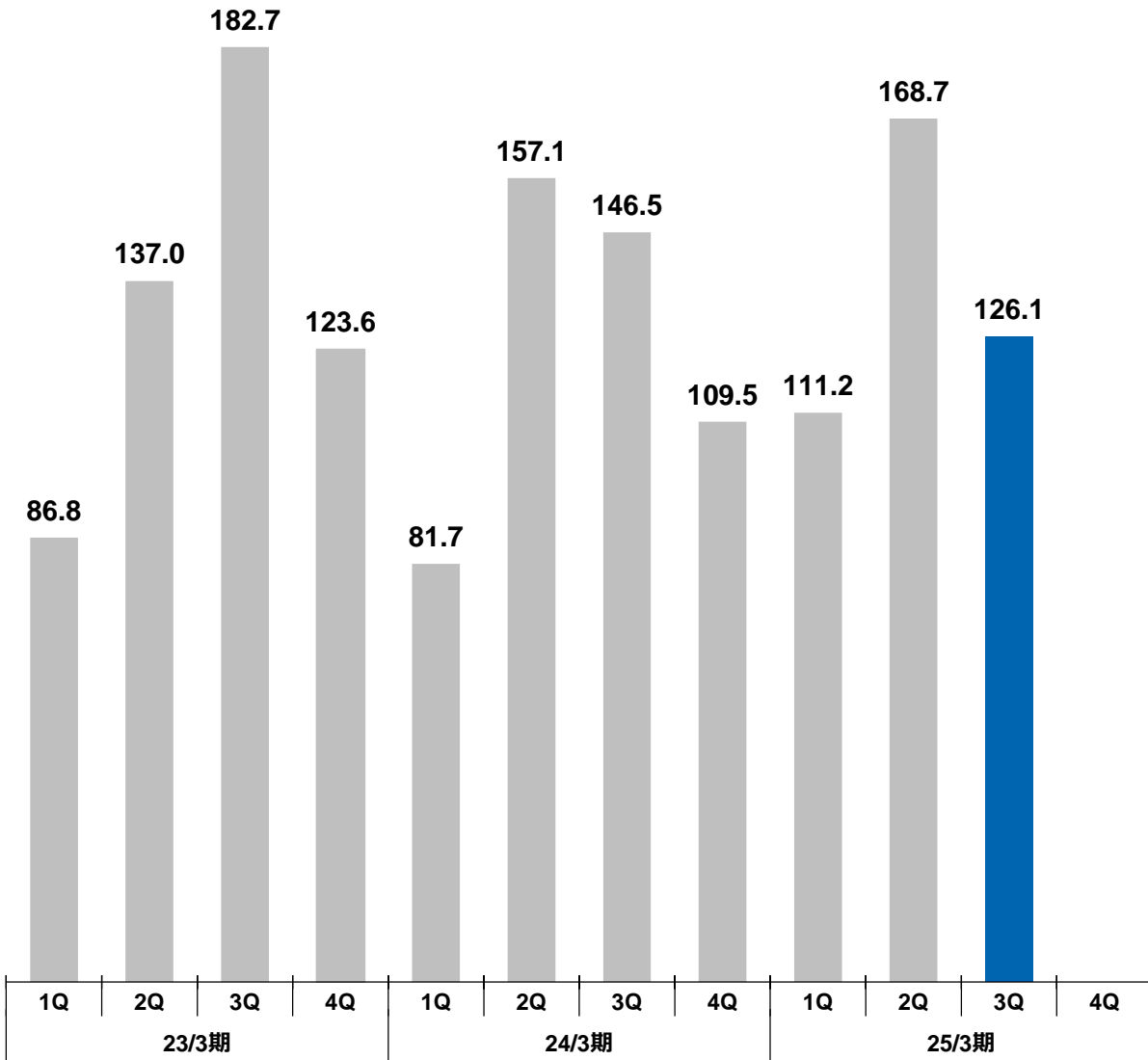


営業利益 (10億円)

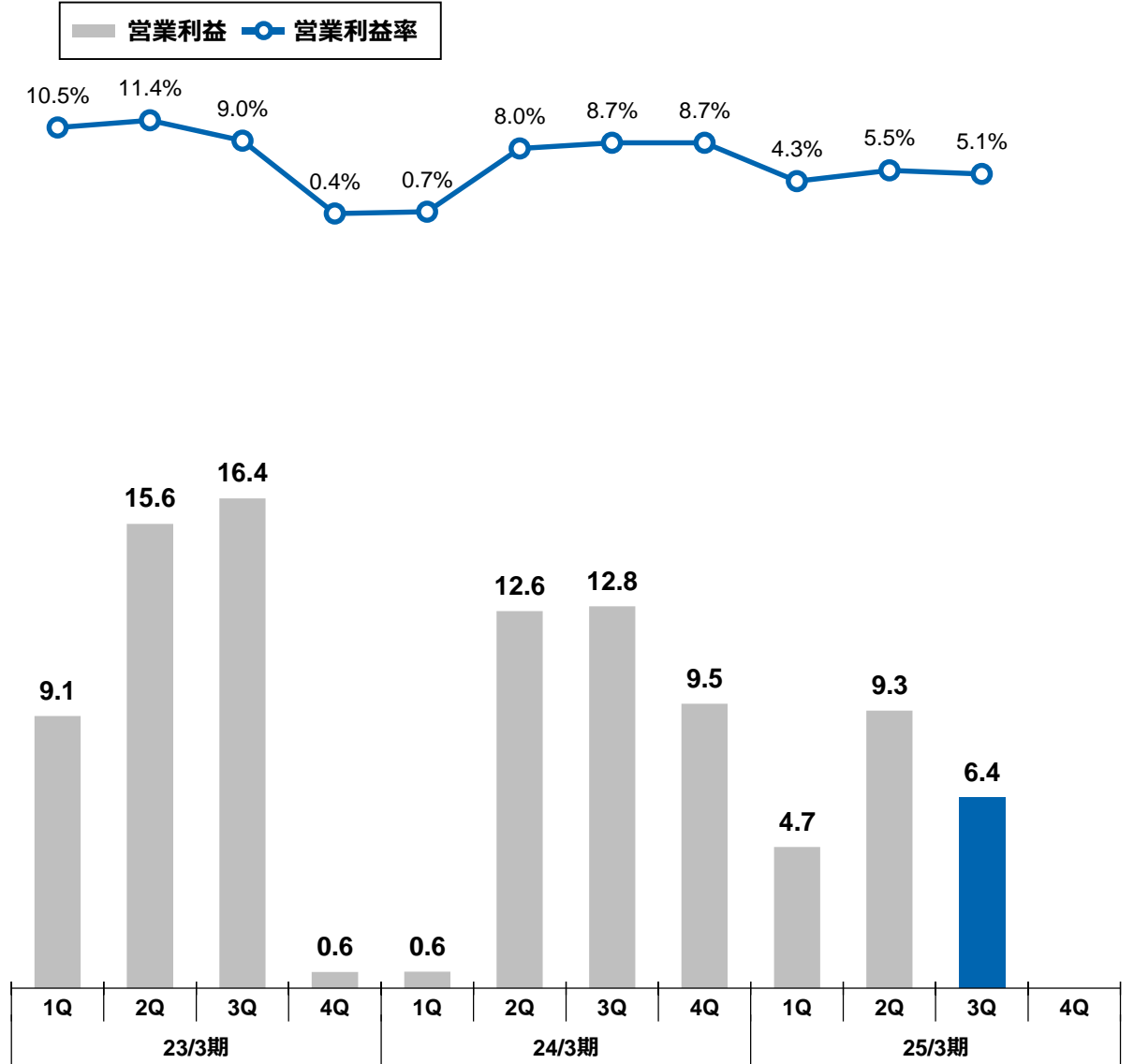


セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)

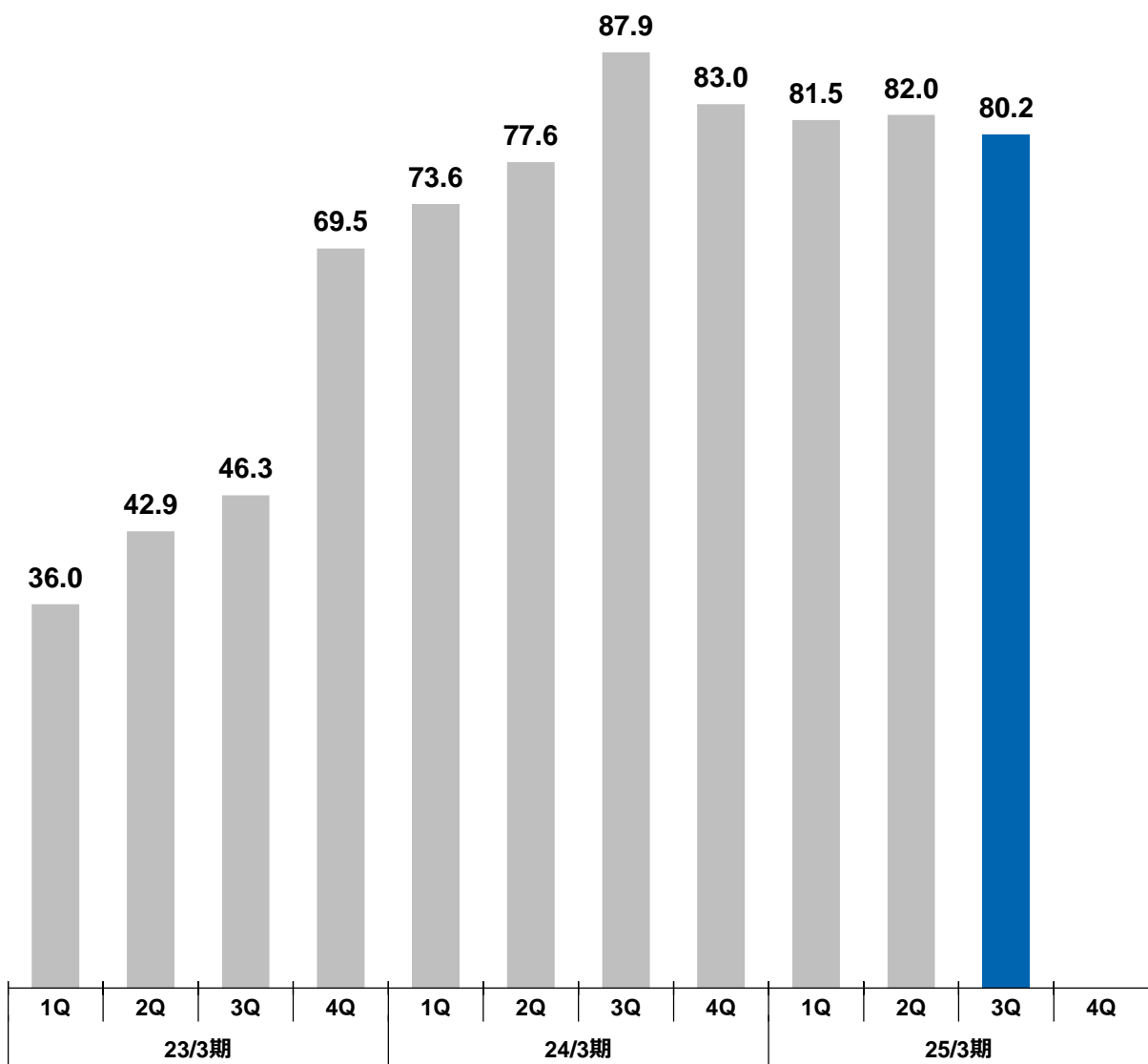


営業利益 (10億円)



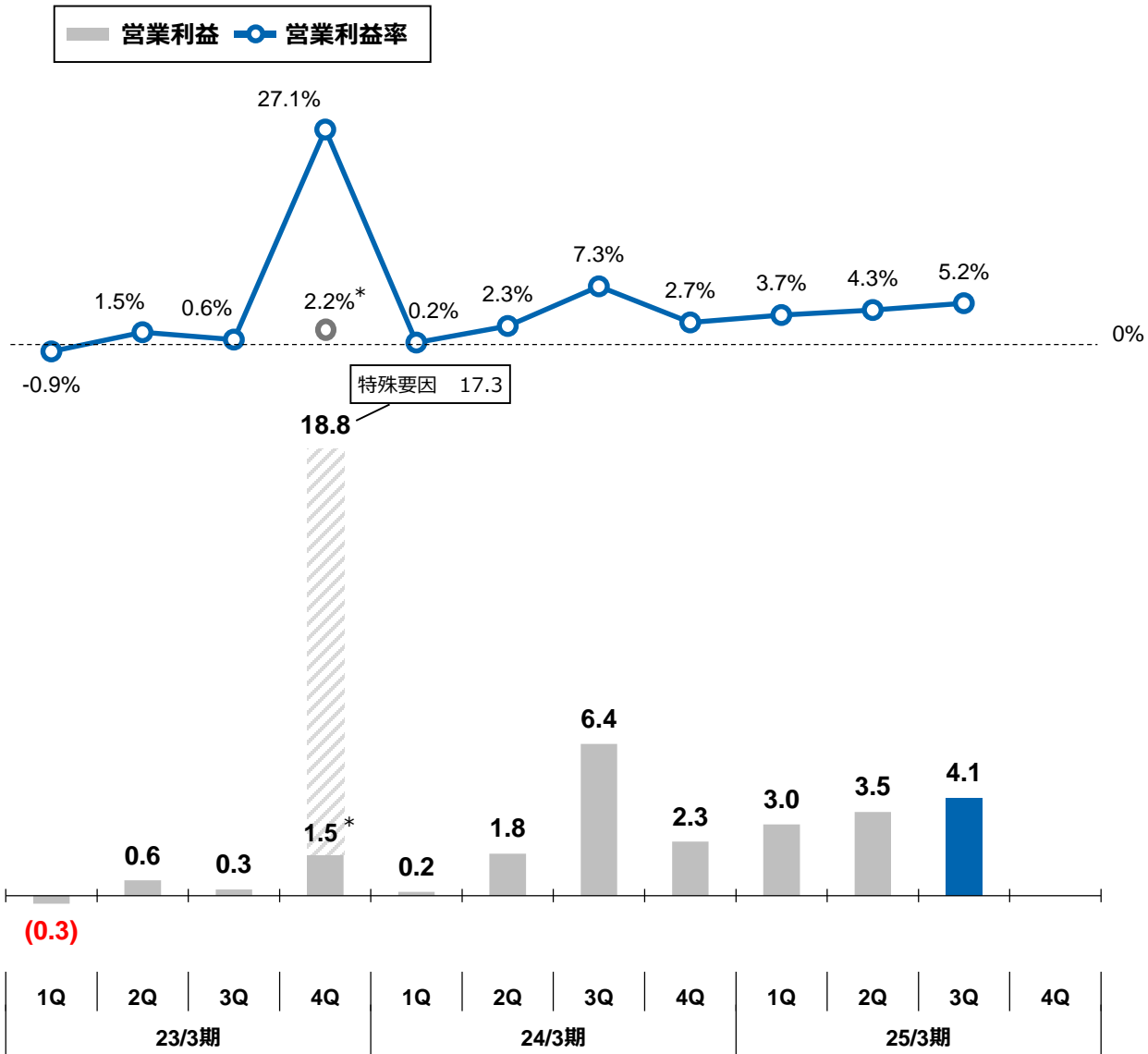
アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

*特殊要因除く

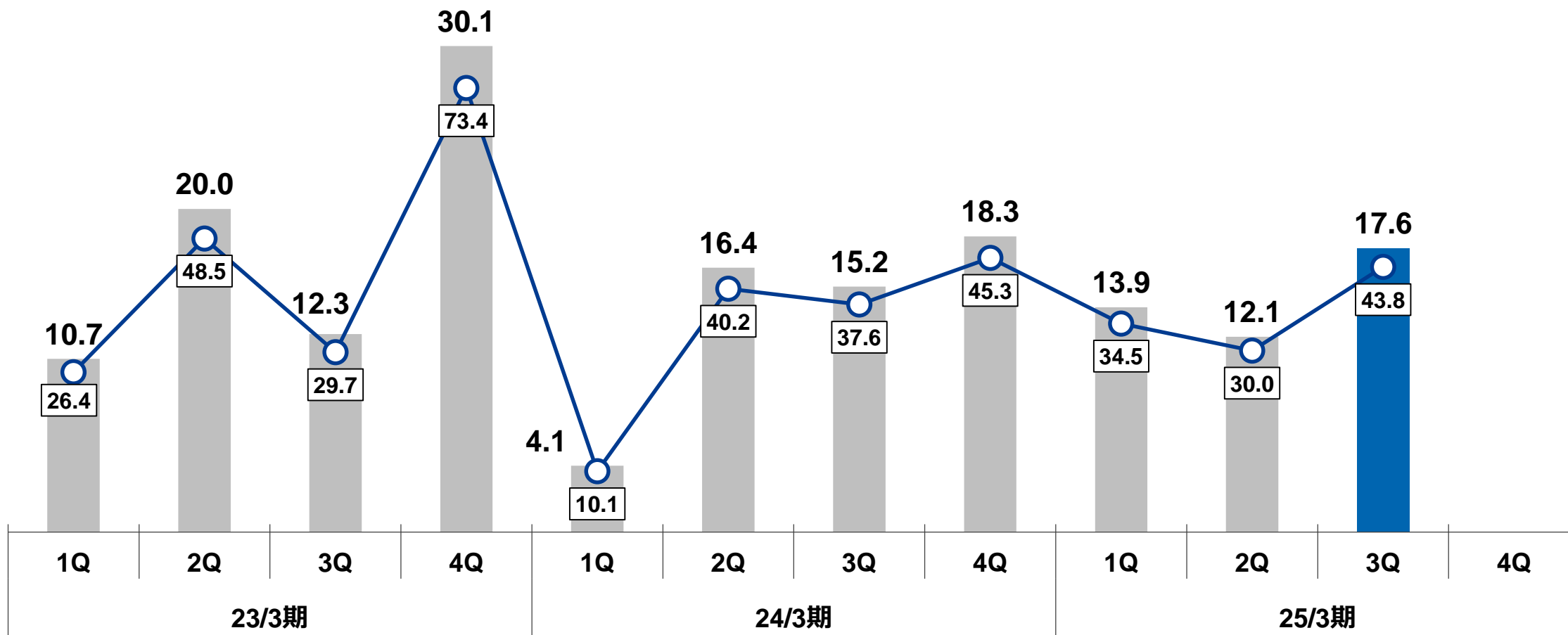


親会社の所有者に帰属する四半期利益

(10億円)

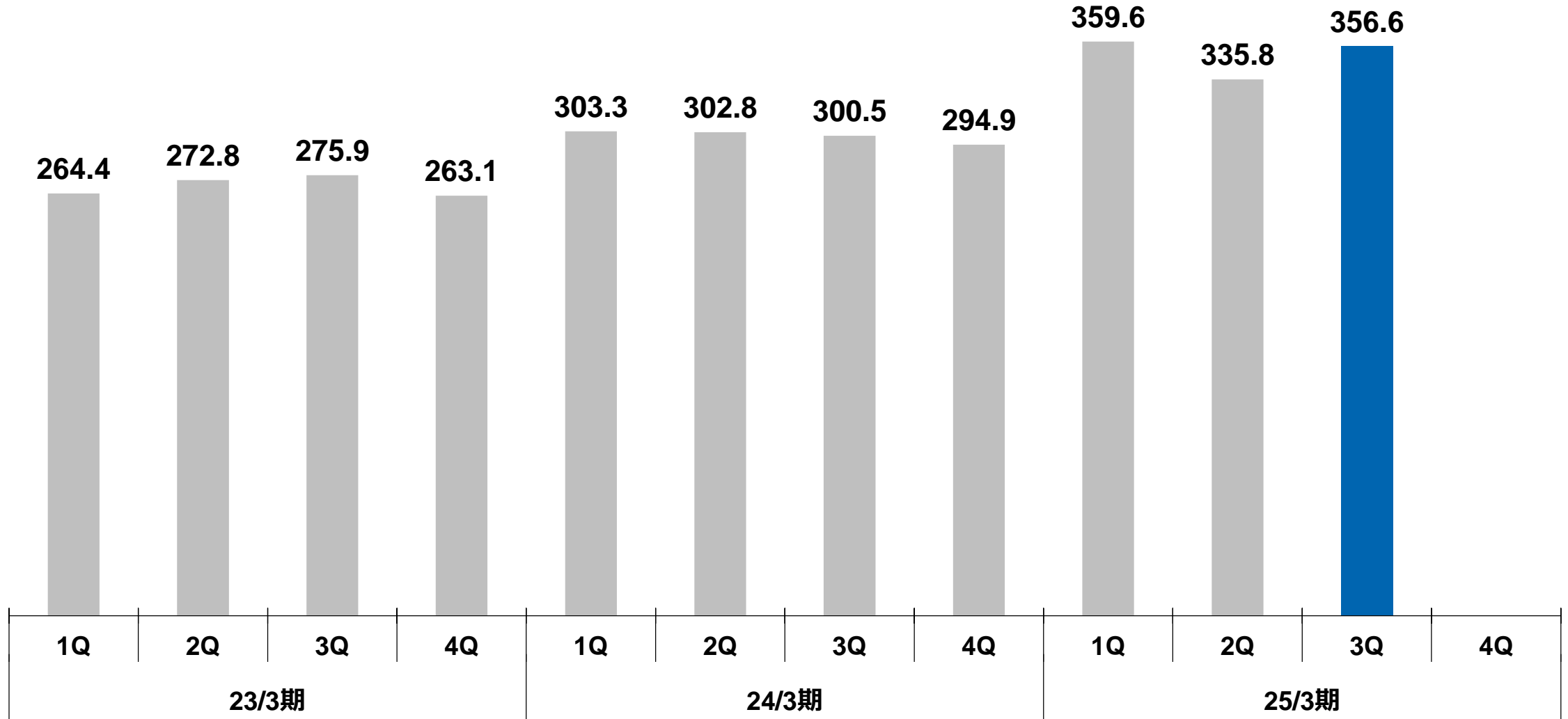
■ 親会社の所有者に帰属する四半期利益

○ 基本的1株当たり四半期利益 (円)



棚卸資産

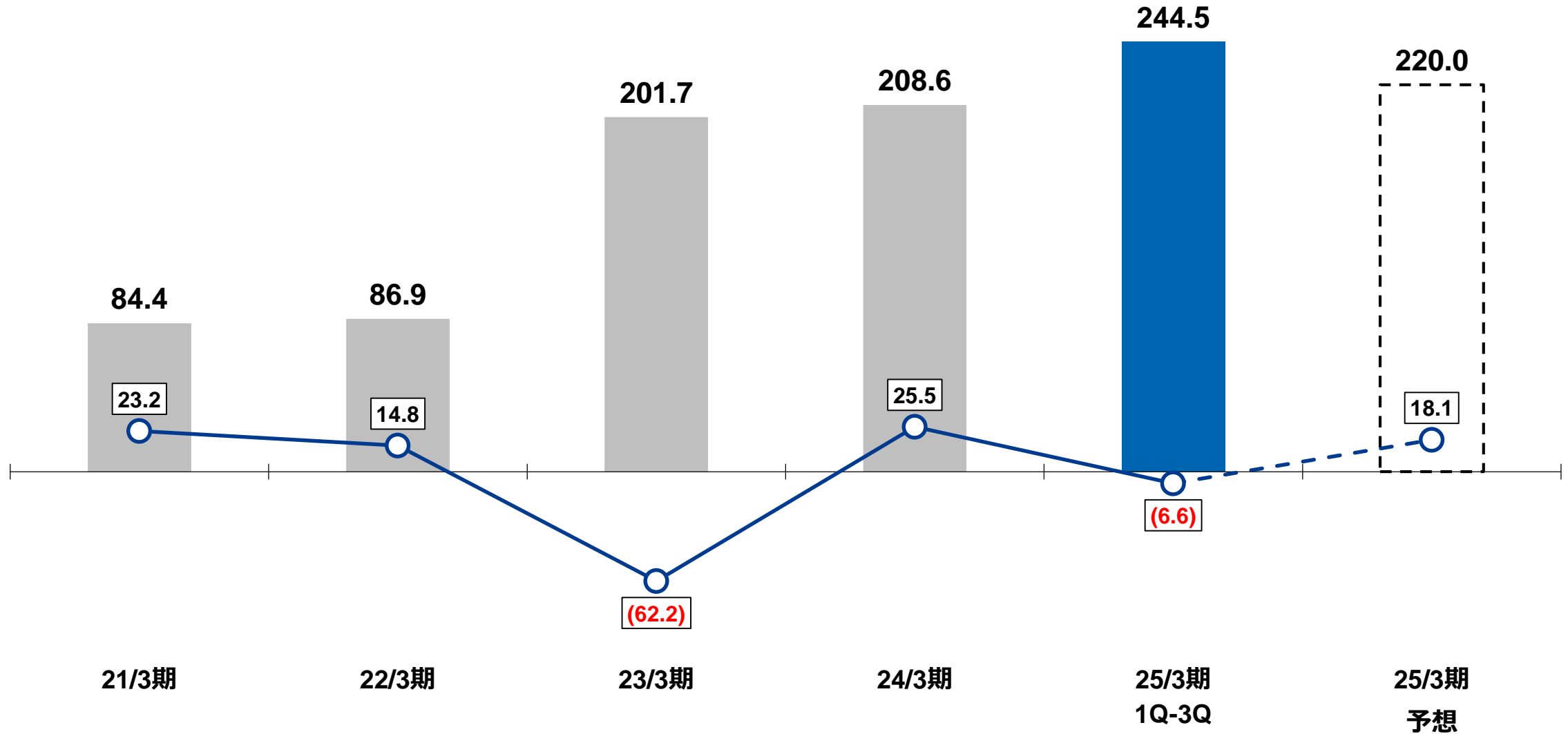
(10億円)



ネット有利子負債、フリーキャッシュフロー

(10億円)

■ ネット有利子負債* ● フリーキャッシュフロー



*ネット有利子負債：連結財政状態計算書上の「社債および借入金」 - (「現金および現金同等物」+3か月超の定期預金)

通期業績予想を修正

(百万円)	2024年3月期	2025年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,402,127	778,237	721,763	1,500,000	+7.0%
営業利益	73,536	48,171	44,829	※ 93,000	+26.5%
税引前利益	75,545	37,387	41,613	79,000	+4.6%
親会社の所有者に帰属する 当期利益	54,035	26,048	30,952	57,000	+5.5%
基本的1株当たり 当期利益 (円)	133.05	64.46	77.03	141.49	+6.3%

為替レート	2024年3月期 通期	2025年3月期 4Q想定
US\$	143.31円	150.00円
ユーロ	155.18円	155.00円
タイバーツ	4.08円	4.45円
人民元	20.03円	20.80円

※40億円程度の一時費用が含まれています

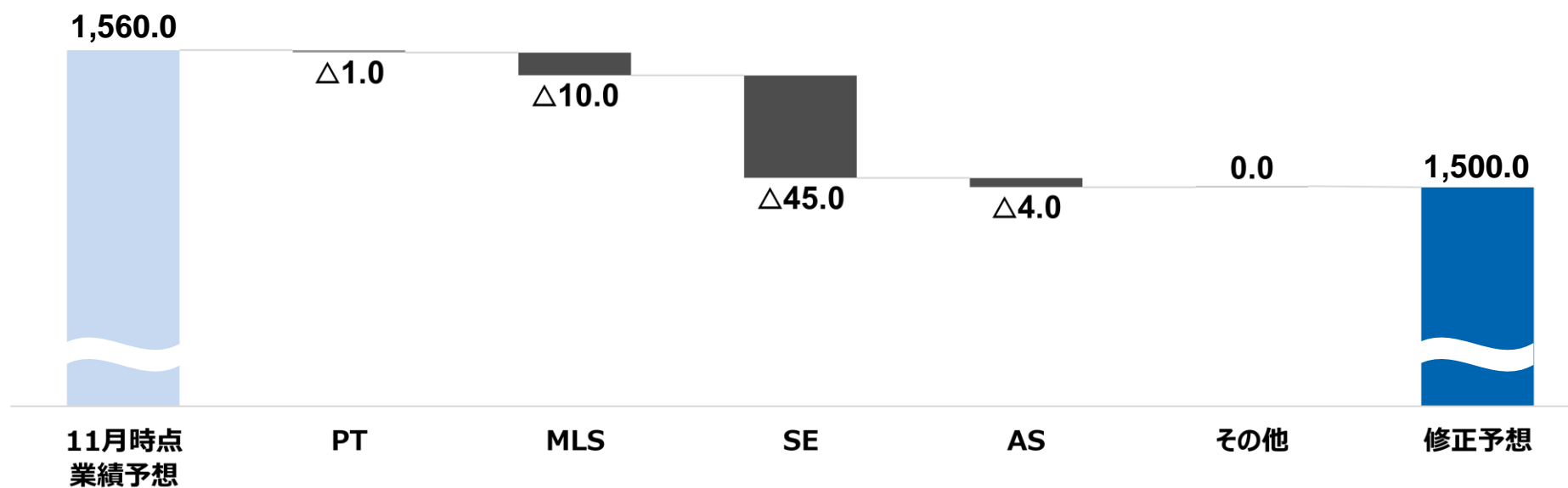
セグメント別業績予想

(百万円)	2024年3月期	2025年3月期			
	通期	上半期	下半期	通期	前期比
売上高	1,402,127	778,237	721,763	1,500,000	+7.0%
プレジジョンテクノロジーズ	211,406	127,561	127,439	255,000	+20.6%
モーター・ライティング&センシング	369,388	205,497	199,503	405,000	+9.6%
セミコンダクタ&エレクトロニクス	494,717	279,944	230,056	510,000	+3.1%
アクセスソリューションズ	322,108	163,539	161,461	325,000	+0.9%
その他	4,508	1,696	3,304	5,000	+10.9%
営業利益	73,536	48,171	44,829	93,000	+26.5%
プレジジョンテクノロジーズ	38,035	27,694	28,306	56,000	+47.2%
モーター・ライティング&センシング	11,867	11,900	12,100	24,000	2.0倍
セミコンダクタ&エレクトロニクス	35,522	14,033	5,967	20,000	-43.7%
アクセスソリューションズ	10,625	6,534	9,466	16,000	+50.6%
その他	△728	△545	△455	△1,000	-
調整額	△21,785	△11,445	△10,555	△22,000	-

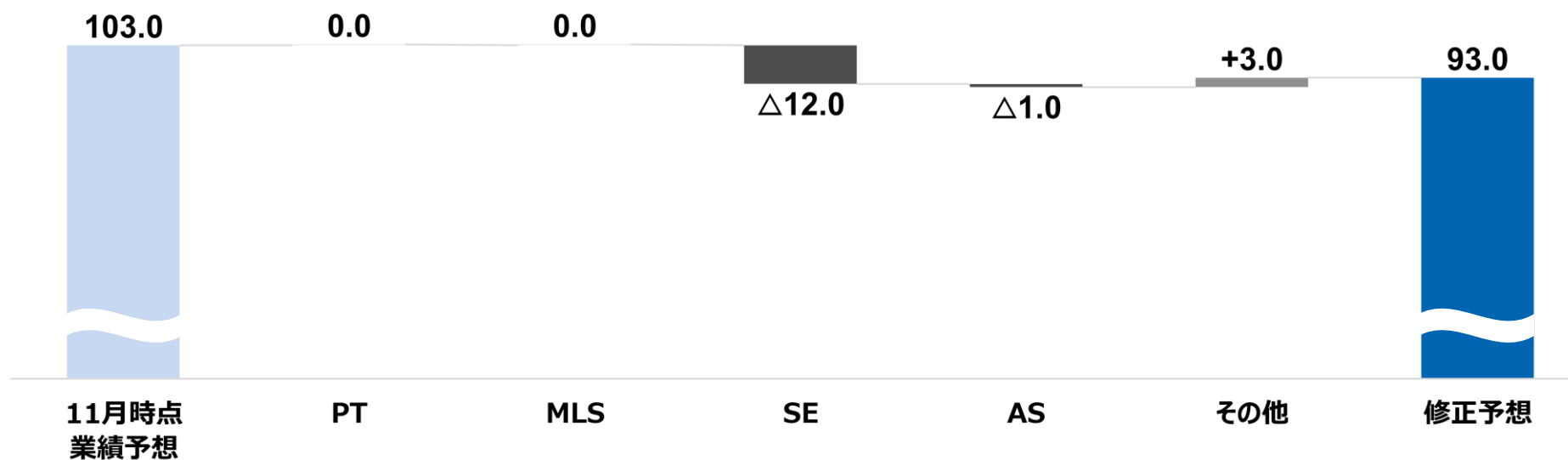
通期業績予想 前回予想（2024年11月6日）からの差異

(10億円)

売上高



営業利益



全体

- 3Q累計は、売上高・営業利益ともに過去最高
- 3Q営業利益は PT、MLSはほぼ想定通り。SEはサブコア事業を主因に計画大幅未達
- 通期売上高は1兆5,000億円で12期連続過去最高更新見込
営業利益を930億円に下方修正（一時費用を含む）
サブコア事業が足をひっぱるが、コア事業は想定通りの利益回復を見込む
（穏やかな事業ポートフォリオの入れ替えが進む）
 - ✓ SEはサブコア事業が前回計画比120億円下方修正（12月より会長室ICU管理）
 - ✓ PT、MLSはそれぞれ過去最高を更新する見通し。ASもYoY +50億円強を見込む
- 安定した収益基盤と事業成長見通しを背景に期末配当は5円増配。連結配当性向は32%弱に

プレジジョンテクノロジーズ (PT)

- データセンター市場、自動車市場は弱含むも、コンテンツグロースによる成長は継続を見込む
- 航空機向けはタイ・インドなどを含むグローバルな生産ネットワークを強みに受注拡大。
市場を上回る成長を見込む

モーター・ライティング& センシング (MLS)

- HDD向けモーターは堅調に推移。車載、非車載ともに想定通り
- 車載向けバックライトは、HUD (Head Up Display) などの新たなアプリケーションも
成長ドライバーとして来期以降に期待

セミコンダクタ& エレクトロニクス (SE)

- 光デバイスは北米客先向けは来期の着実な立ち上げに注力
中華圏向けは原則撤退。高付加価値品のみに集中
- 機構部品は収益改善施策を検討中
- アナログ半導体は市況が低迷するも、ニッチ戦略が奏功し、損益に対する影響は限定的

アクセスソリューションズ (AS)

- 自動車市場は減速するも生産性改善や価格是正などの施策が結実。
3Q営業利益もQoQで+17%達成

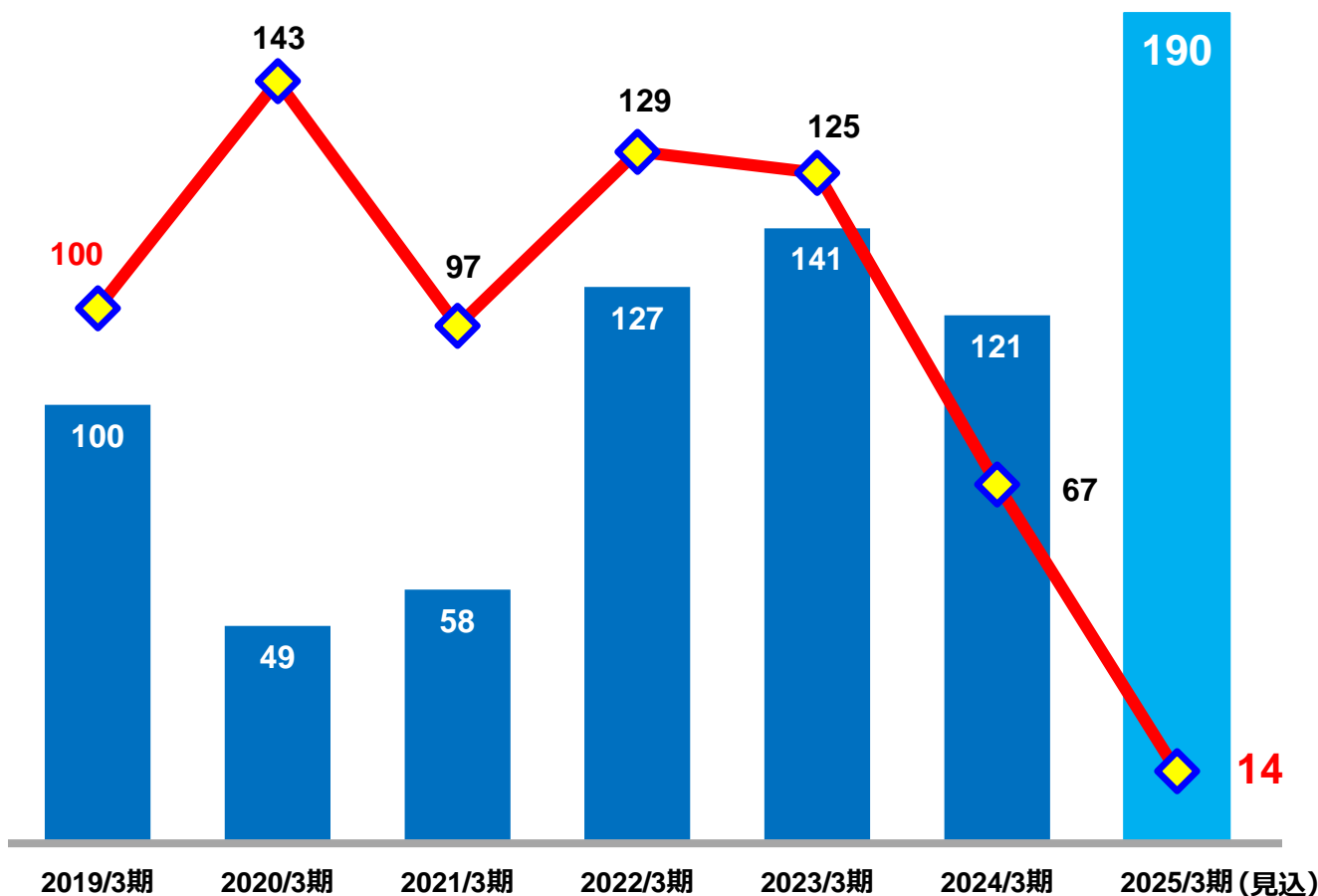
通期業績予想を下方修正するが、営業利益は前期比26.5%増

(百万円)	2024年3月期	2025年3月期			
	通期	1Q-3Q実績	4Q予想	通期予想	前期比
売上高	1,402,127	1,147,880	352,120	1,500,000	+7.0%
営業利益	73,536	74,594	18,406	93,000	+26.5%
<small>親会社の所有者に帰属する</small> 当期利益	54,035	43,654	13,346	57,000	+5.5%
<small>基本的1株当たり</small> 当期利益 <small>(円)</small>	133.05	108.24	33.25	141.49	+6.3%

サブコア事業は足を引っ張るが、コア事業は想定通りの利益回復見込

■ 連結営業利益指数（サブコア事業を除く） ◆ サブコア事業の営業利益指数

※指数化：2019/3期=100



今期の見通し

- PTセグメントは**過去最高の営業利益となる560億円**を見込む
 - MLSセグメントの**営業利益は前期比倍増の240億円**へ
 - ASセグメントも**営業利益は前期比50億円強の増益**
 - **サブコアビジネス（機構部品・光デバイス・バックライト）の収益力が大幅に低下**
- ➔ **様々な手段を用いて収益力を向上させる**
- 対策の3本柱**
- ✓ 会長室ICU
 - ✓ 8本槍のM&A
 - ✓ 8本槍の自然的（オーガニック）成長

営業利益600億円が狙えるポジションに成長 航空機向けはグローバル生産ネットワークを増強し市場を上回る成長を見込む

主なポイント

1 データセンター向けビジネス

- 足元は弱含むが、中長期的には、当社の高機能ベアリングに対するニーズ（耐久性、発熱マネジメント、静音性など）は継続・拡大を見込む

2 自動車向けビジネス

- 自動車市場は減速しているものの、安全性・快適性の向上、環境対応に伴う電装化などによるコンテンツグロースに支えられ、堅調に推移

3 航空機向けビジネス

- 2025年3月期は、新規ビジネスの獲得やシェア増により売上、収益ともに大きく成長。コロナ前の販売を大きく上回る見込み
- 2026年3月期以降も市場の伸びを上回る成長を計画
 - ✓ エンジン向け新規パーツビジネスのインド新工場での生産開始
- タイ工場における太陽光発電の活用など、ミネベアミツミの環境対策が航空業界のカーボンニュートラルに貢献

航空機向け部品生産拠点の拡張

- 航空機製造関連企業のアジアシフトが急速に進行
当社アジア生産拠点からの供給に対する期待が高まる
- タイ、インド工場からグループ欧米工場への部品供給を増やし、コスト競争力、供給力、収益性を向上

タイ・ロップリ工場

建築面積：
約16,500㎡
生産品目（予定）：
航空機部品
総投資額（予定）：
約150億円（第一期分のみ）
生産開始（予定）：
2026年

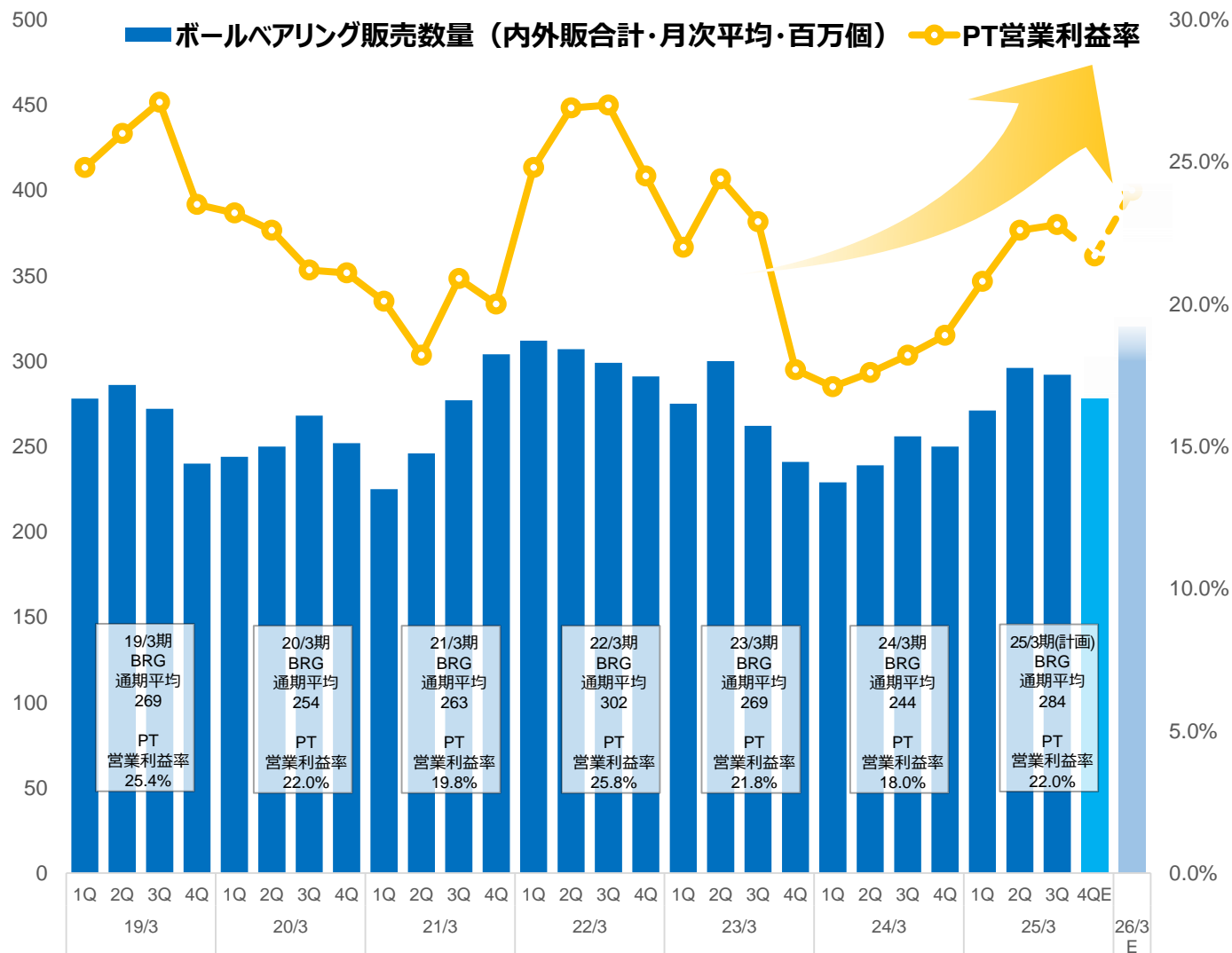


インド・Mach Aero

建築面積：
約7,223㎡
生産品目（予定）：
航空機向けエンジン部品など
総投資額（予定）：
約31億円
生産開始（予定）：
2025年2月



ボールベアリングの販売数量・収益性は回復基調 データセンター、自動車、ヒューマノイドロボット市場において、新たなベアリングの使用機会も見えてきた



ボールベアリング市場における新たなトレンド

データセンター向け空冷ファンモーター

- サーバーの冷却方式が水冷になったとしても、GPU以外のデバイス冷却に空冷は引き続き使用される
- ファンモーターの騒音対策として、回転速度を低下させ、同等の風量を確保するため、数量を増やすトレンドが見られる
- 24時間の安定稼働と冷却効率の向上に対応するため、当社の高信頼性・高速回転スーパーベアリングの需要が増加

自動車向けコンテンツグロース

- エンジンタイプの変化によるコンテンツグロースは継続 (ICE⇒HEV 員数+11%、ICE⇒EV 員数 ほぼ横ばい)
当社製品の員数が最も多いのはHEVとなり、EV需要の減速の影響は限定的
- 電動化に伴う新たな用途の拡大も進む
例) EMB (電動メカニカルブレーキ) :
油圧式ブレーキを各車輪に搭載された電気モーターで 制御する機械式に 転換したもので、精密な制御が可能。電気自動車への利用が期待されている

ヒューマノイドロボット

- 関節が多く、微細な力のコントロールが求められるヒューマノイドロボット市場の成長により、当社の超精密・高機能ベアリングの需要も拡大

モーターは堅調に推移 車載向けバックライトの新たな用途としてHUDも成長ドライバーに

主なポイント

1 モーター

- HDD向け、車載向け、非車載向けモーターはいずれも堅調に推移
- 2025年3月期通期営業利益270億円の目線は不変

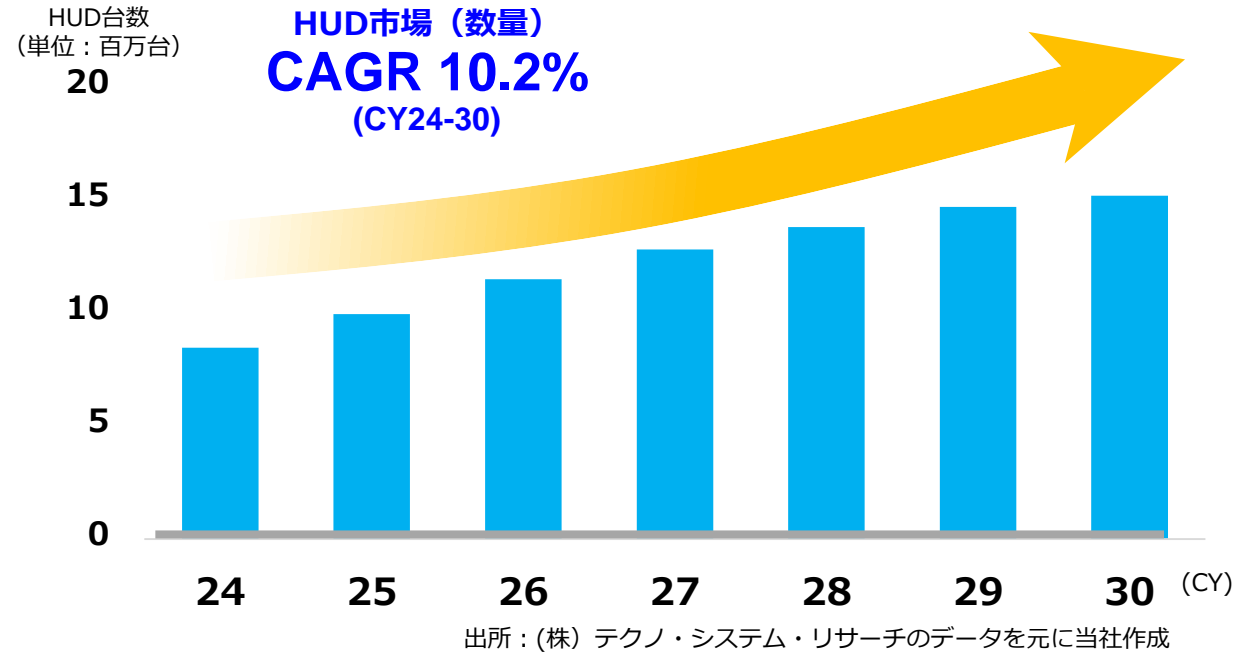
2 車載向けバックライト

- 新たな用途としてHUDをはじめ、車内の様々なディスプレイ関連製品の開発を進める
- HUD市場はCAGR10.2% (CY24-30、数量ベース) を見込む。新たな成長ドライバーとして期待

3 センシングデバイス

- ヒューマノイドロボットやアクセス製品をはじめ、他事業との“相合”による用途拡大に取り組み、利益率向上を狙う

HUD (Head Up Display) 市場予測



車載向けディスプレイ製品 (イメージ)

HUD関連



E-mirror



アナログ半導体は、ニッチ・カスタム領域に注力し 2029年3月期までに売上2,000億円、営業利益率30%を達成する

主なポイント

1 半導体:ニッチ市場に注力し、独自プロセスで中国メーカーとの差別化を実現

- ニッチ・カスタム領域に集中。高精度、低消費電力、小型化を極めることで高い収益性を実現
- すり合わせによる独自プロセスで他企業の参入を防ぐ

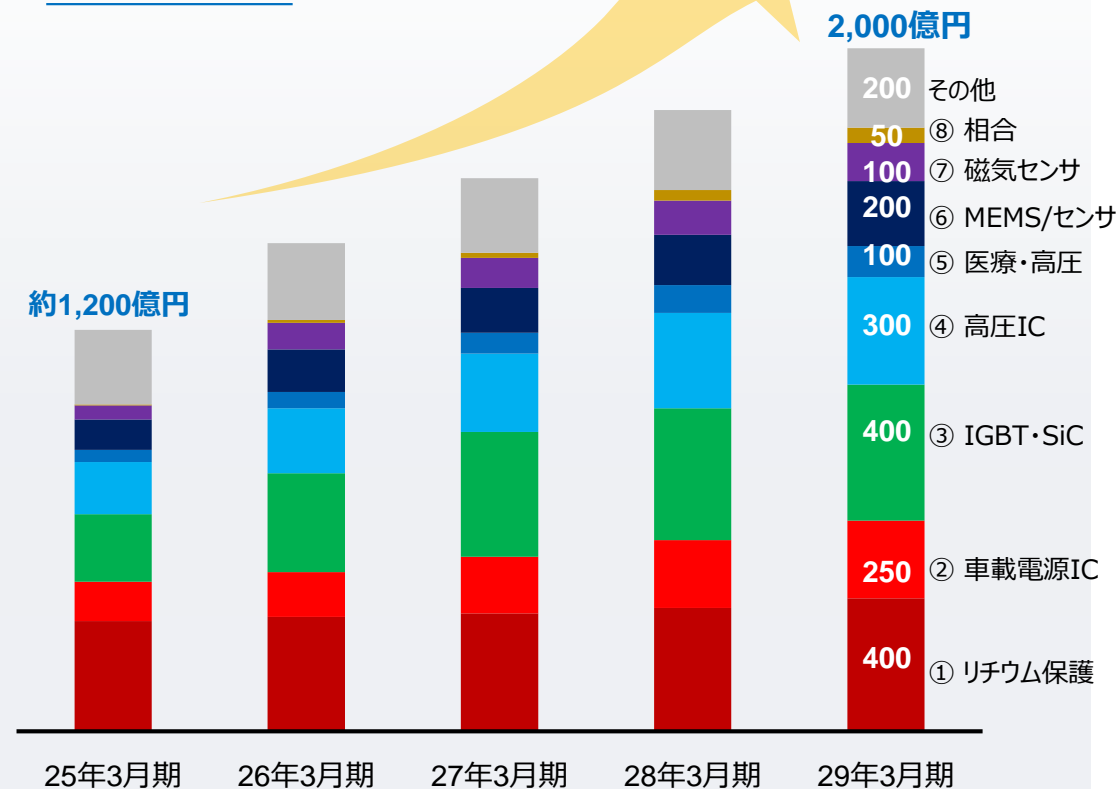
2 半導体:後工程拡大のため、グローバルサウス補助金を活用し、セブ拠点に新棟設立

- 総投資額105億円のうち、40億円はグローバルサウス補助金を活用し、投資負担を軽減
- 後工程の内製化を進め、車載・医療など高い顧客要求を充足セブの低コスト生産とエイブリック秋田の高生産性の「いいとこ取り」で圧倒的な競争力を実現

3 サブコア事業(光デバイス、機構部品)は予想を下回るが、大きな流れでは想定範囲内

半導体部門 売上計画イメージ

25 → 29年3月期
CAGR +14%



ASグループ内のシナジー創出により、売上拡大・利益率向上を実現

主なポイント

1 ミネベアアクセスソリューションズ（旧ホンダロック）開発の製品が世界のOEMから受注獲得

- 日本、北米、欧州、アジアの自動車メーカーに拡販し、売上拡大を見込む

2 インドにおける二輪車向けビジネスの拡大

- 東南アジアで堅調な二輪車向けスマートロックなどのビジネスを、今後成長市場として期待できるインドに拡大

3 AS内のシナジー創出を加速し、売上・利益の最大化へ

- 欧州で量産中である車載部品の組立工程の一部をアジアに生産移管・集約し、収益改善を見込む
- 統合シナジーをより強化するため、各工場間での営業活動の協業展開、生産協業活動の取組拡大など、売上・利益の最大化に向けたプロジェクトを実行中
- MAS米国工場では引合増加

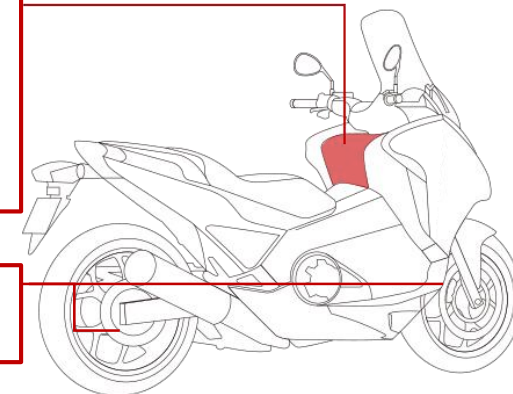
二輪車ビジネス

今後成長市場として期待できる インドへのビジネスを展開

【FOB、スマートコントロールユニット】
スマートシステムにおける所有者認証(通信)を行います

【ハンドルロックスイッチ】
スマートシステムの起動・停止やエンジンの始動・停止、ハンドルロックを行います

【ホイールセンサー】
実車ECU側に車輪の回転情報を伝達します



FOB



コントロールユニット



ハンドルロックスイッチ



ホイールセンサー



配当金

期末配当は25円（年間配当 45円）を予定



(ご参考) 24/3期 年間配当40円 (中間20円 期末20円)

- **持続的・安定的な配当**：中期的なキャッシュアロケーションポリシーに基づき、安定した配当を実施
- **連結配当性向30%**：安定した収益基盤と事業成長の見通しを背景に、今後の連結配当性向を30%程度と想定
- **長期的な信頼関係**：投資家の皆様との長期的な信頼関係を築くことを目指します

自己株式取得

2024年8月2日に開示した自己株式の取得について、2024年11月6日まで（約定ベース）の取得状況は下記の通りであり、当該自己株式の取得は終了

取得した株式の総数：2,800千株（上限2,800千株）

取得価額の総額：7,778.6百万円（上限10,000百万円）



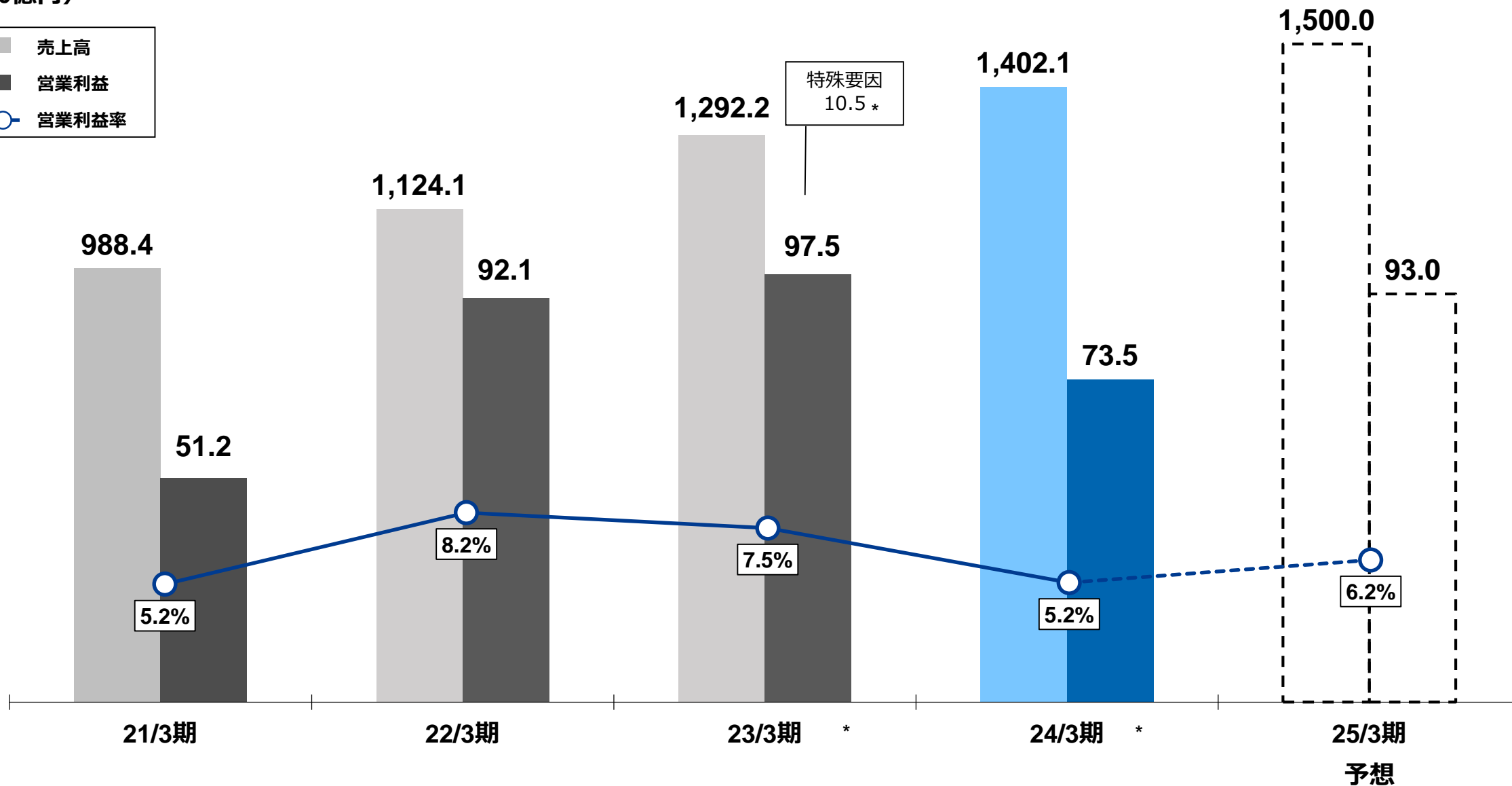
当資料で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベアミツミ株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

參考資料

売上高、営業利益、営業利益率

*本多通信工業・ミネベアコネクト・ミネベア アクセソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正

(10億円)

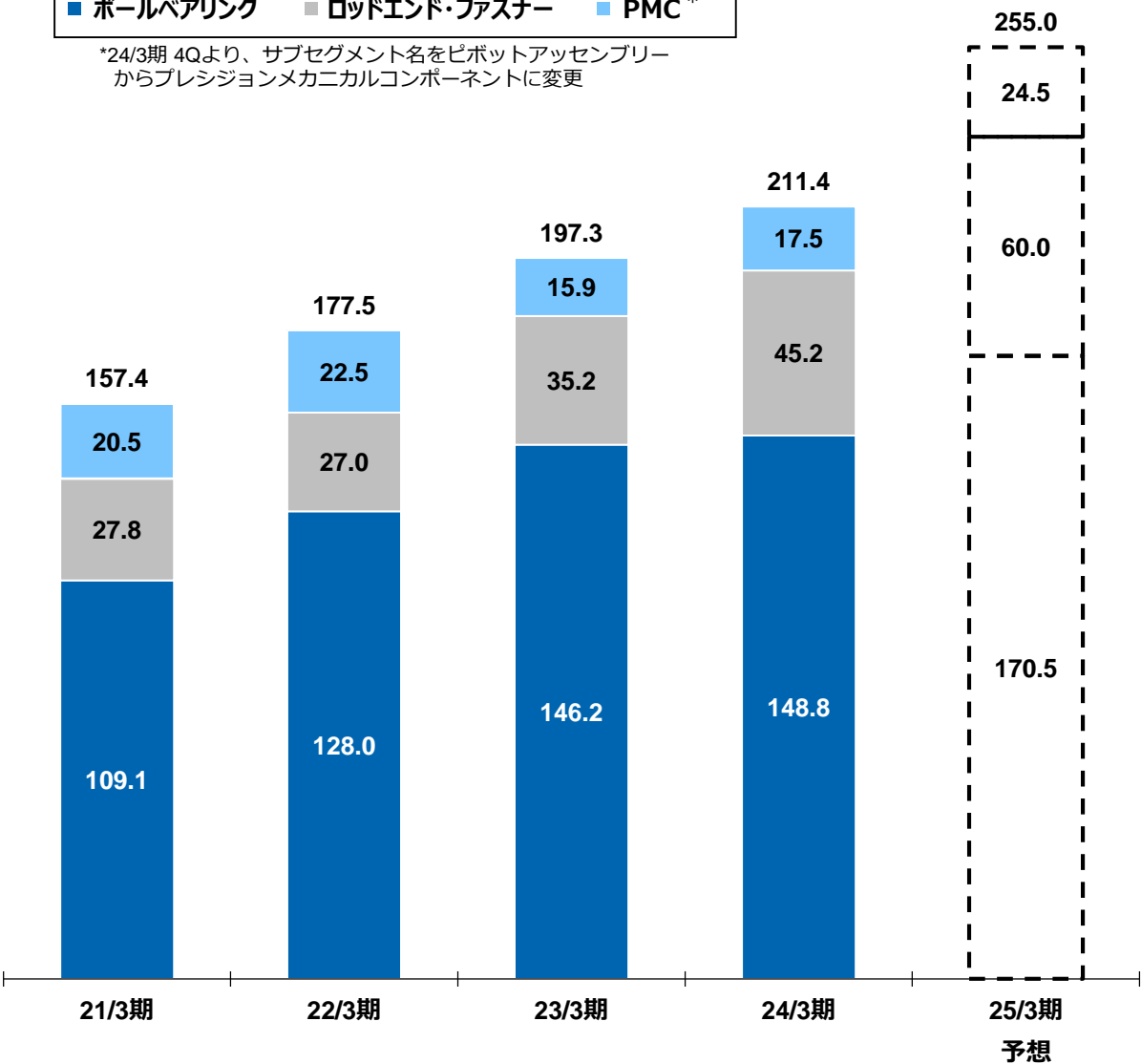


プレジジョンテクノロジーズ セグメント (PT)

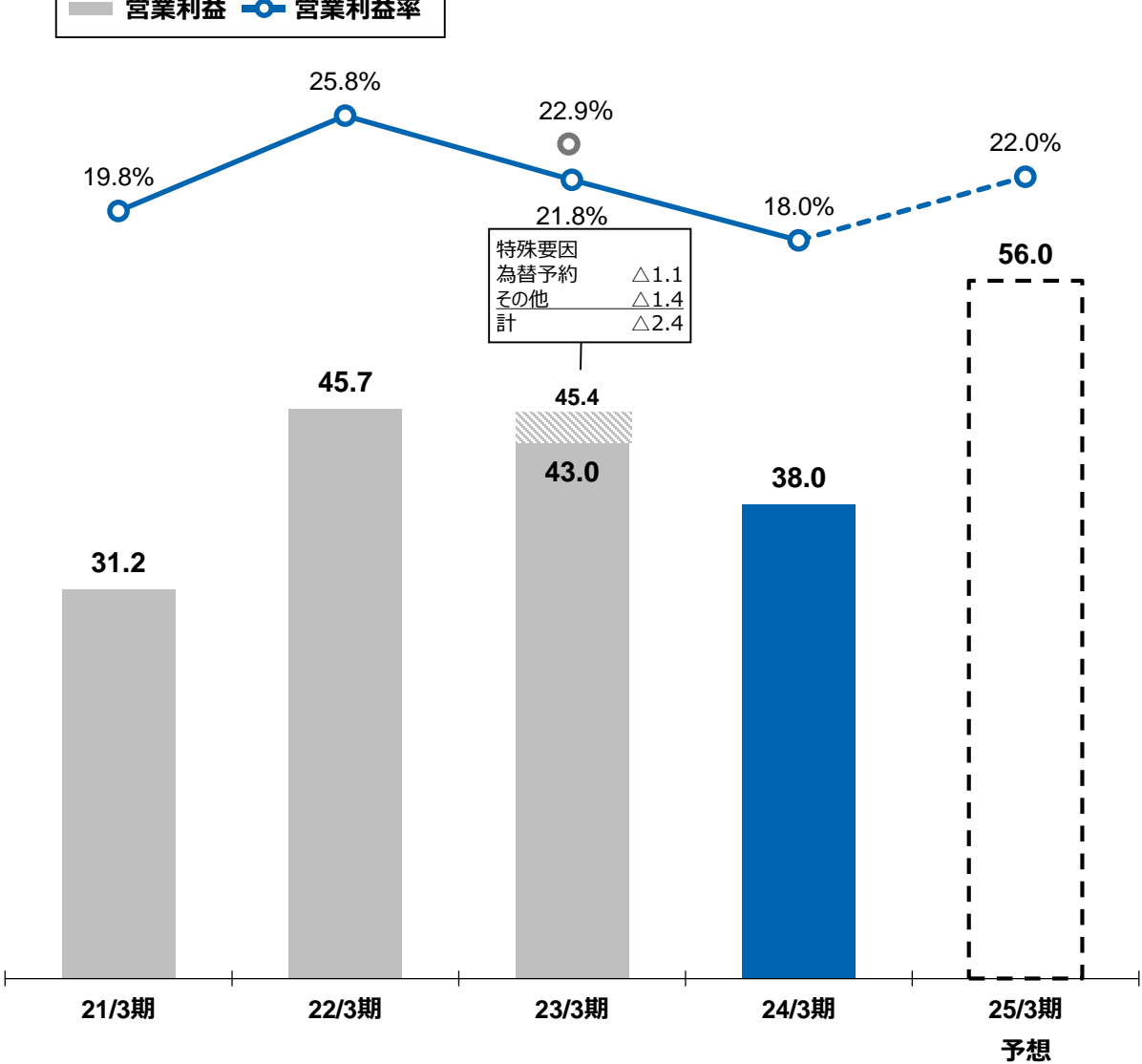
売上高 (10億円)



*24/3期 4Qより、サブセグメント名をピボットアッセンブリーからプレジジョンメカニカルコンポーネントに変更

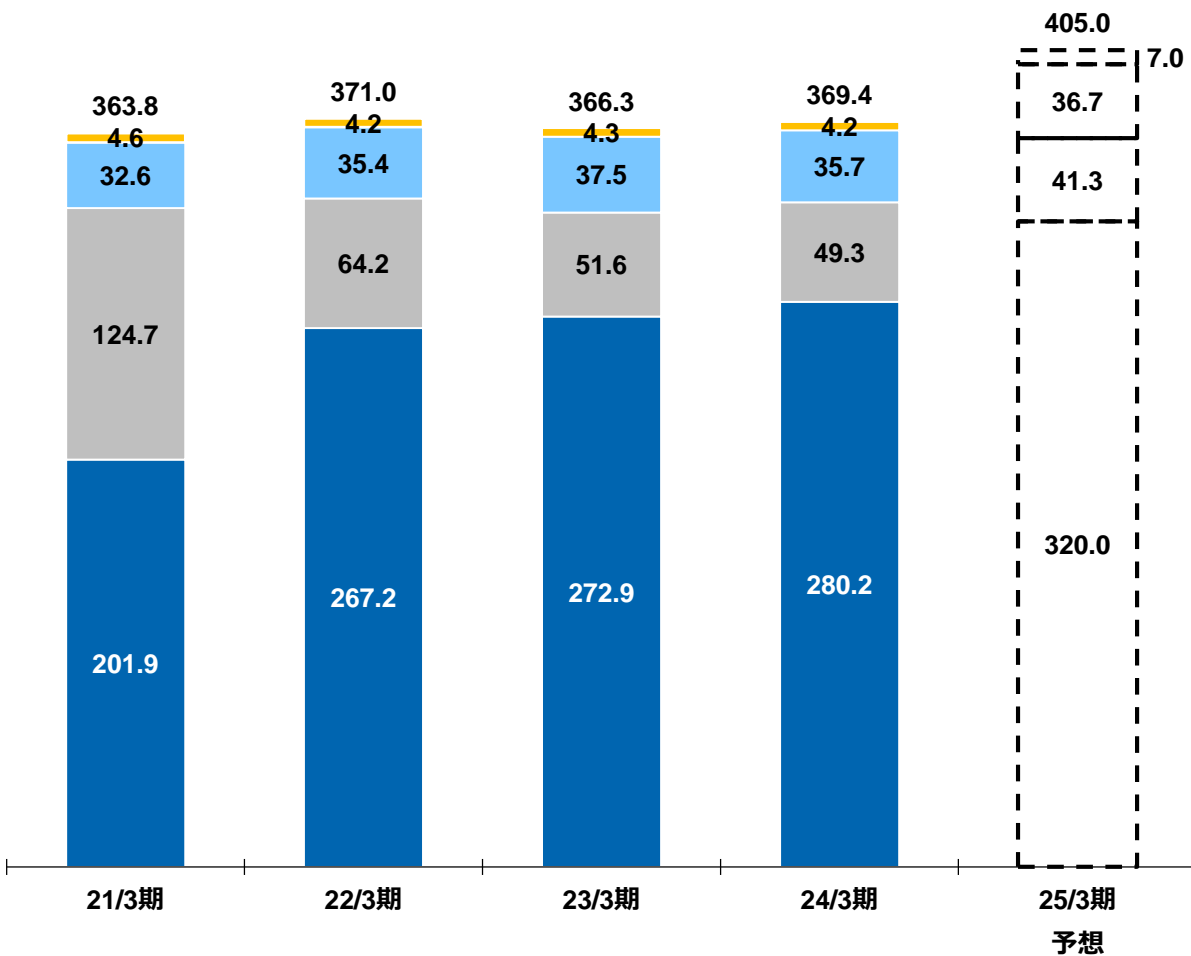


営業利益 (10億円)

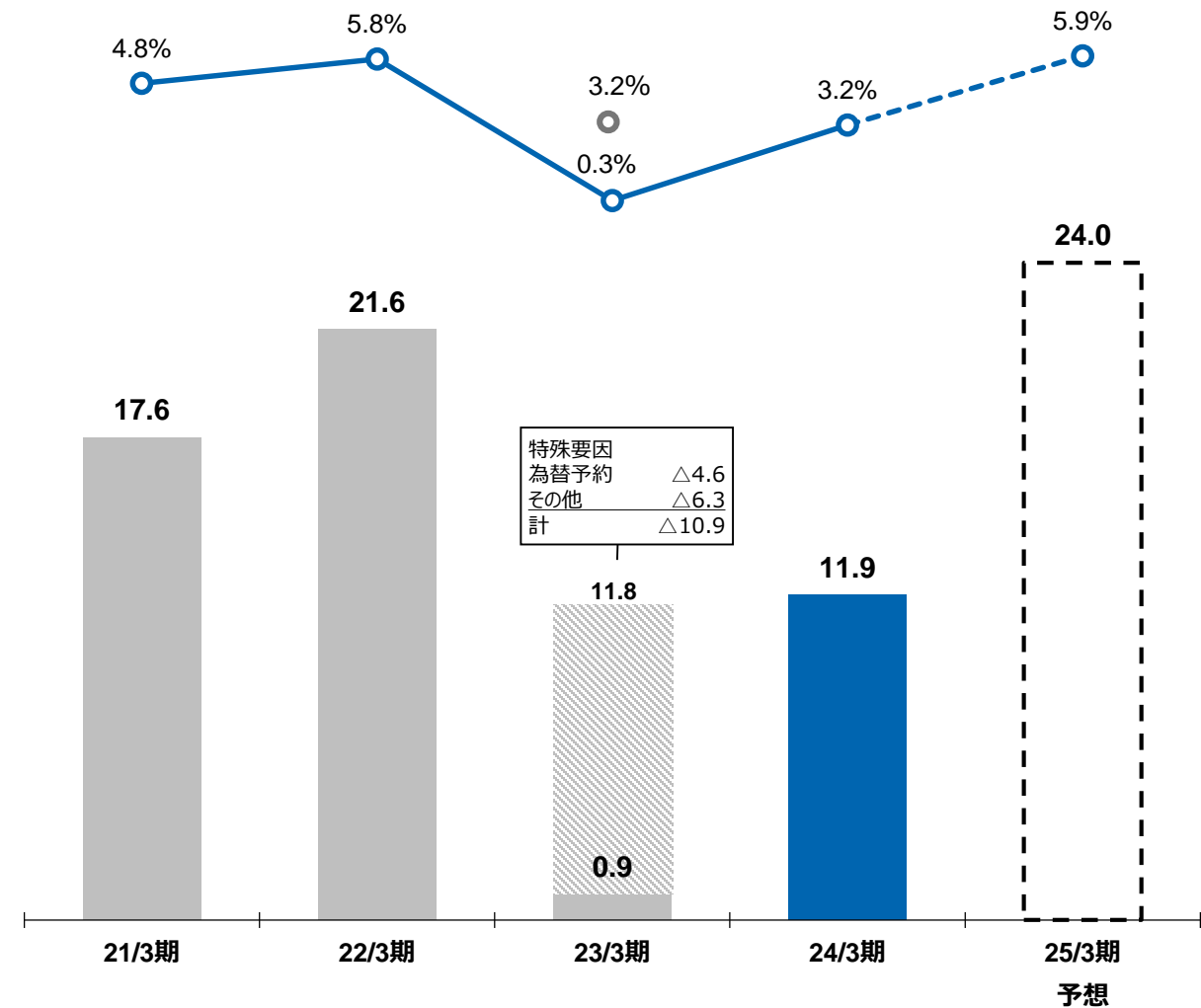


モーター・ライティング&センシング セグメント (MLS)

売上高 (10億円)

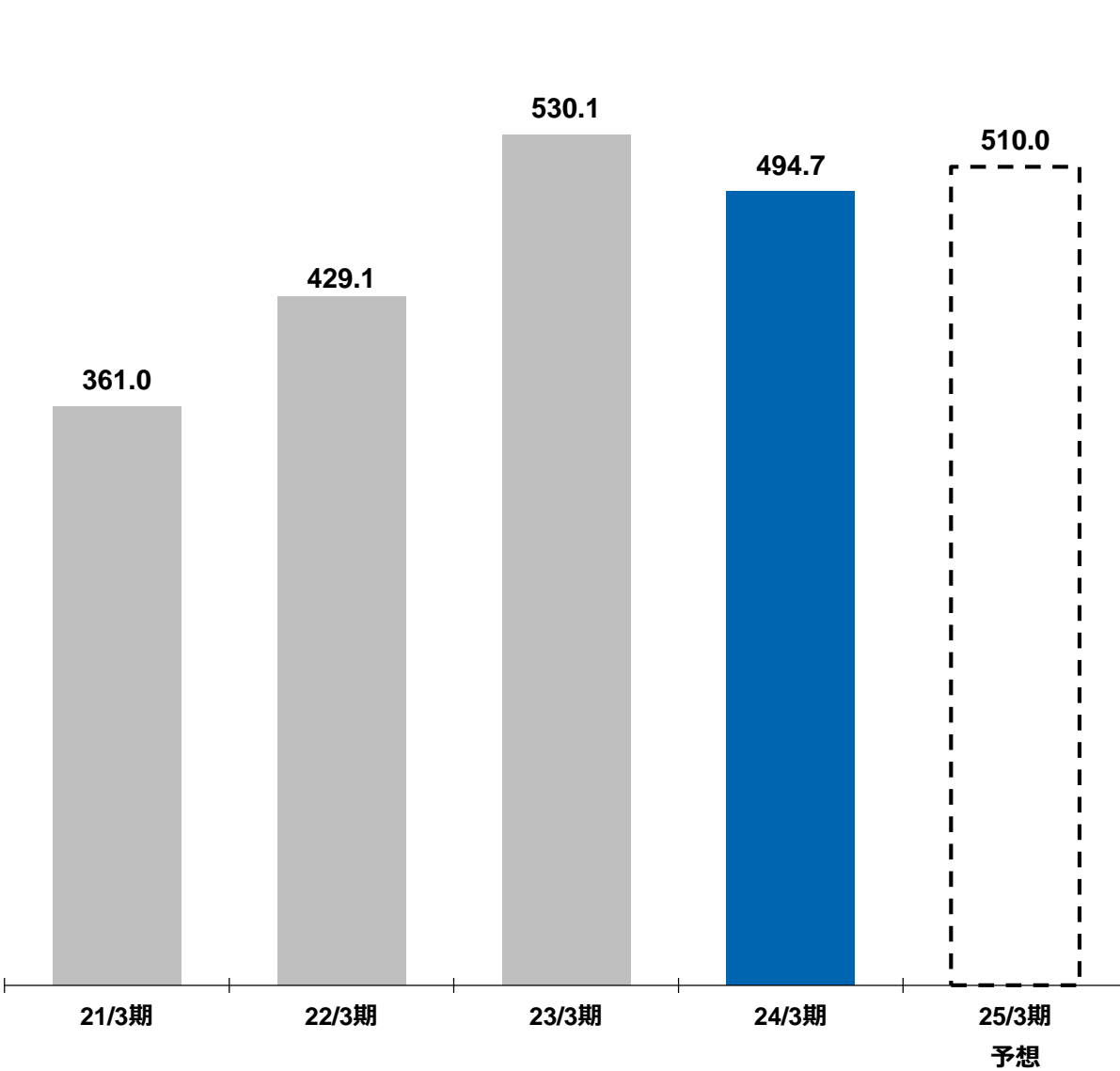


営業利益 (10億円)

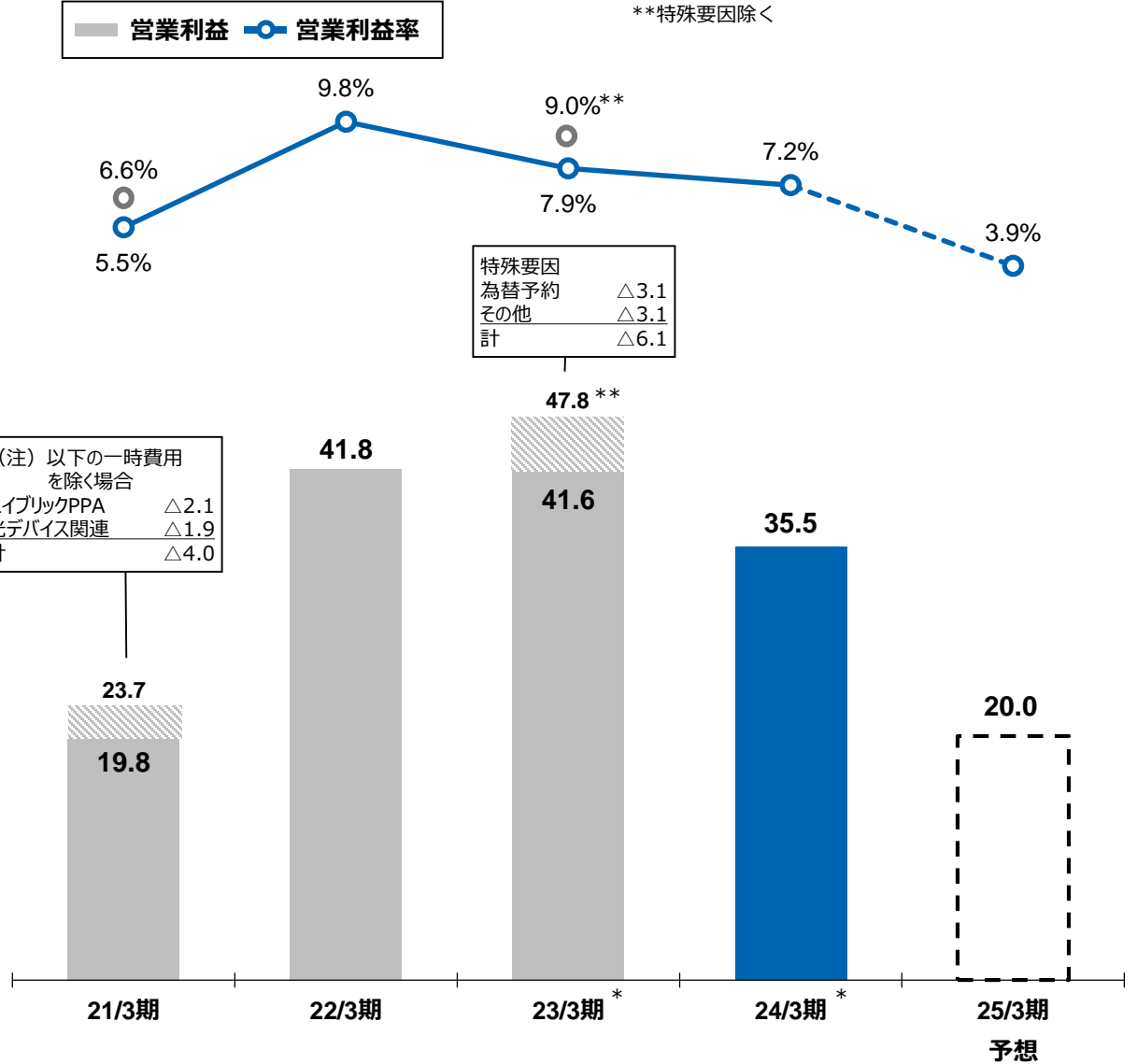


セミコンダクタ&エレクトロニクス セグメント (SE)

売上高 (10億円)



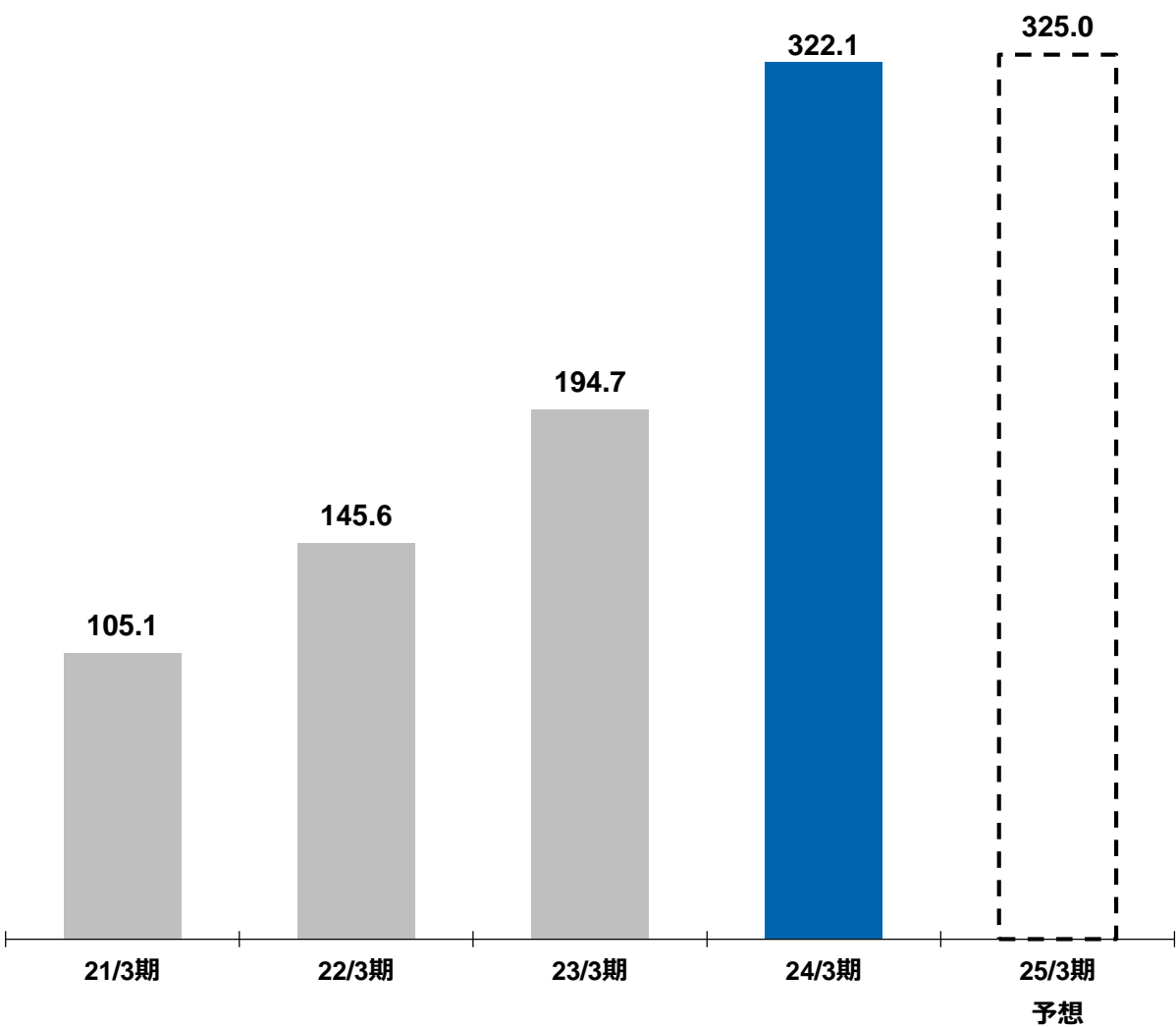
営業利益 (10億円)



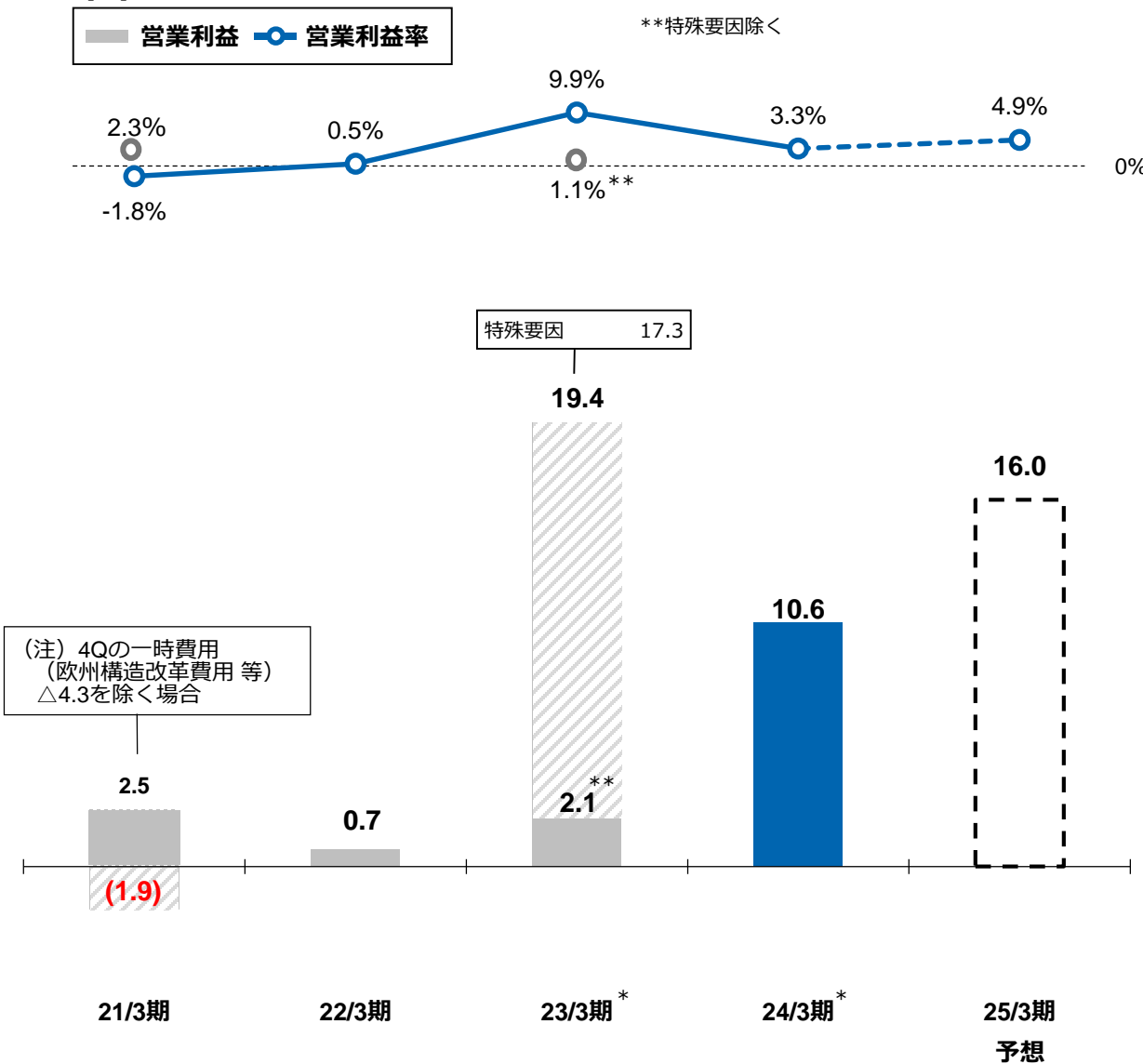
*本多通信工業・ミネベアコネク트의PPA評価完了に伴い、2024年3月期第2四半期以前の営業利益を遡及修正
**特殊要因除く

アクセスソリューションズ セグメント (AS)

売上高 (10億円)



営業利益 (10億円)

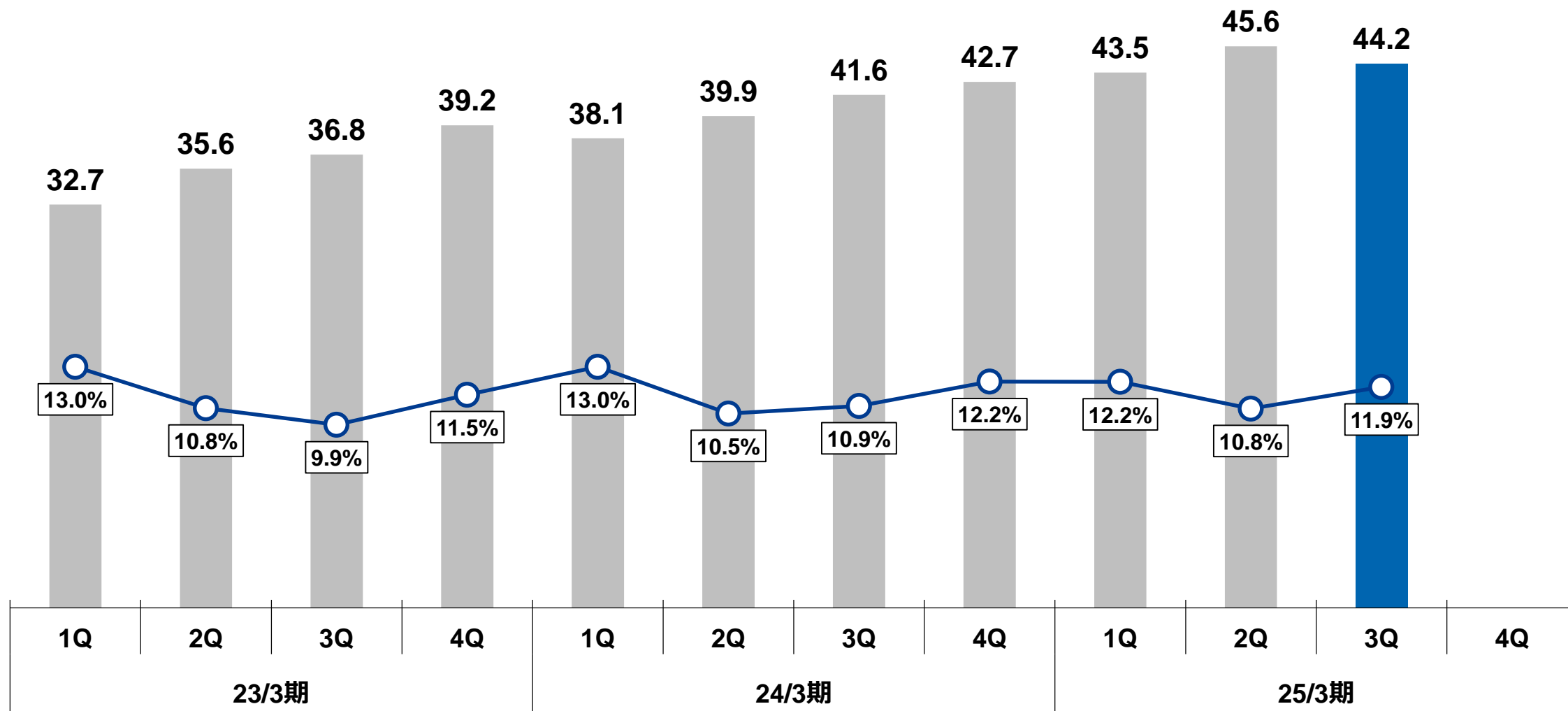


*ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の営業利益を遡及修正
 **特殊要因除く

販管費

(10億円)

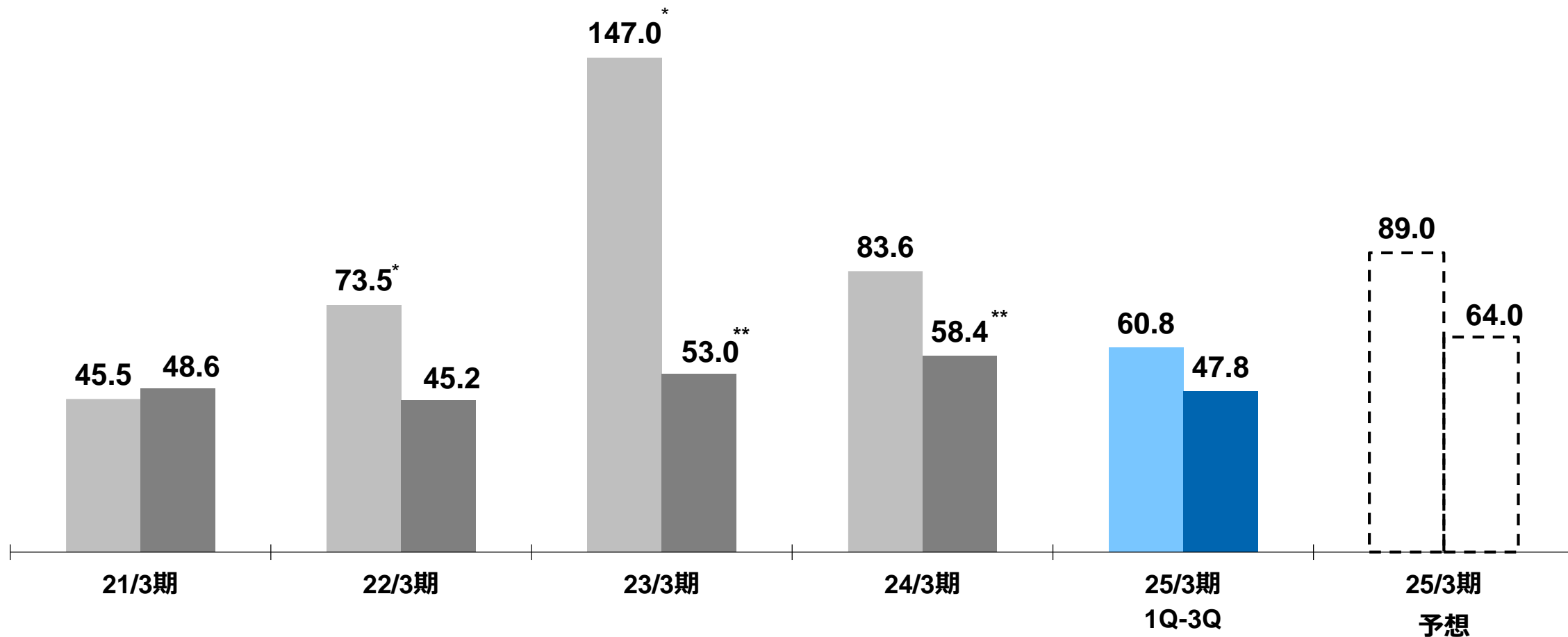
■ 販管費 ○ 売上高販管費比率



設備投資額・減価償却費

(10億円)

■ 設備投資額 ■ 減価償却費



*22/3期、23/3期の設備投資額には、新本部ビル取得費用が含まれています。

**本多通信工業・ミネベアコネクト・ミネベア アクセスソリューションズのPPA評価完了に伴い、2024年3月期第3四半期以前の数値を遡及修正。

ROIC (投下資本利益率)

ミネベアミツミ版
ROIC

$$\text{ROIC} = \frac{\text{NOPAT (営業利益+特別損益)} \times (1 - \text{税率})}{\text{投下資本 (受取手形+売掛金+棚卸資産+固定資産-支払手形-買掛金)}}$$

セグメント別で管理できる事業資産（売上債権・債務、棚卸資産、固定資産）で算出

